

2000年度
講義計画

桃山学院大学

講義計画

美術史概論

東京大学出版会

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文	1 1	通 期	2 単位	三 浦 俊 介
【講義概要・学習目標】 本講義では論文・レポートの書き方の習得を目標とする。句読点の打ち方、文・段落、全体構成、論理的展開などに配慮しつつ、正しい日本語文の書き方を習得してもらいたい。文章修行は、大学での成績をアップするだけでなく、就職活動や社会に出てからの仕事などにも大いに役立つはずである。前期は、レポート・論文の書き方の基本を学び、執筆・添削を繰り返す。後期は、前期論文を充実させて、修了論文へと高めていく。	【講義計画】 前期：原稿用紙の使い方や表記・表現の基本を学習する。 計算機センターでワープロソフトの講習を受ける。 前期講義中に「前期論文」を執筆し、提出する。 夏期休暇中に三浦が添削する。 後期：前期論文を発展させて、修了論文を書き上げる。 配布資料や学生の前期論文に対する相互の意見交換を通して、レポート・論文の書き方について実践的に学習する。			
【成績評価の方法】 ①毎回出席を取る。欠席・遅刻の過多は減点対象とする。 ②講義中の提出物・前期論文・修了論文の出来を重視する。	【参考文献】 木下 是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房 小河原 誠『読み書きの技法』（ちくま新書）筑摩書房 中村 明『文章工房』（ちくま新書）筑摩書房 その他については講義中に随時紹介する。			
【教科書】 教科書は使用せず、随時プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	1 2	通 期	2 単位	安 田 真 一
【講義概要・学習目標】 ワープロ・コンピュータの普及、インターネットなどの情報ツールなどによって、「書く」機会が少なくなったかのように見える。しかし、どのような道具を使おうとも、自分の考えを表明し、他人に伝えるためには言葉が必要であり、それを誰にでも伝わるように、構成しなくてはならない。手紙・レポート・報告書など、ただ何となく気の向くままに書くのではなく、考えて書くこと、伝わるように書くこと、それが大切である。 言葉に対して敏感になり、自分の伝えたいことをより正確に述べられるように、論述する技術を、様々なテーマに取り組むことによって身につけてほしいと思う。 文章での表現法を講義形式で述べつつ、その都度特定のテーマを論述してもらいたい。前期は手で「書く」ことを重視するので、原稿用紙・レポート用紙を各自用意してもらいたい。後期からはワープロも使用して書いてもらう予定である。	【講義計画】 前期後期ともに、様々な課題を与え、論述してもらい、提出していただく。前期は、手で書いてもらい、後期にはワープロも使用して書いてもらう。課題などは、出来れば話し合いながら決めたいので、積極的な参加、意見を求めたい。			
【成績評価の方法】 講義時の平常点、およびレポートによる。	【参考文献】 本田 勝一『日本語の作文技術』（朝日文庫） 本田 勝一『実戦・日本語の作文技術』（朝日文庫） 澤田 昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫）			
【教科書】 江川 純『レポート・小論文の書き方』（日経文庫）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	1 3	通 期	2 単 位	柳 父 章
〔講義概要・学習目標〕 分かりやすく、明快で、論理的な文章が書けるように訓練する。 毎時間に取り上げるテーマであるが、始めは自己紹介の文、次は友達紹介の文などから、自分の体験についてのテーマ、というように、身近な、比較的書きやすい文から始めて、次第に、社会問題、政治問題、思想的問題など、抽象的なテーマについて書いていく。	〔講義計画〕 毎時間、まず担当者がテーマを出し、そのテーマについて説明し、次に参加者学生に、400字詰め原稿用紙で2枚程度で書いてもらい、それを提出させ、採点する。次の時間に出来のいい論文を読み上げたり、全体の出来を批評したりする。 論文用紙は生協で販売している「コクヨの800字詰め原稿用紙」を購入して、始めの時間、そして以後毎時間の授業に持ってくる。			
〔成績評価の方法〕 毎時間提出してもらった論文を採点し、年間を通じての総合結果で評価する。別に試験はこなさない。	〔参考文献〕 私じしんの作文方法についての文章を、随時取り上げるが、そのテキストは、その時々で紹介する。			
〔教科書〕 とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論 述 作 文	1 4	通 期	2 単 位	山 川 偉 也
〔講義概要・学習目標〕 論理的で明快な文章を作成する訓練を徹底して行う。毎回の授業時間はテキストを読んで練習問題をやることに費やされる。そして、それとは別個に、作文の宿題を課す。提出された作文は添削し、必要な場合はコメントを付して返却される。返却された原稿はより一層完全なものに仕上げられ、ワープロで清書して提出することが義務づけられる。年間を通じて、以上のことだけが反復される。ただ、夏休みには比較的長い論述文を作成することが求められ、学年末には、その論述文を完成させたものを提出することが求められる。	〔講義計画〕 講義概要・学習目標に書いたことに尽きる。			
〔成績評価の方法〕 毎回の授業ごとに評価がなされ、年間におけるその積み重ねが総合評価となる。ただし、その評価には出席回数がかかる。授業を3回以上無断欠席した者は評価対象外となる。	〔参考文献〕 尾川正二『原稿の書き方』講談社新書			
〔教科書〕 山川偉也・清水真一『論理開眼』世界思想社				

「コンピュータ利用Ⅰ」クラス一覧

クラス	担 当 者	頁	クラス	担 当 者	頁	クラス	担 当 者	頁
0 1	島田 文彦	104	1 1	岩田 賢造	106	2 1	永田 淳次	107
0 2	島田 文彦	104	1 2	島田 文彦	104	2 2	永田 淳次	107
0 3	水口 薫	104	1 3	島田 文彦	104	2 3	水口 薫	108
0 4	毛利進太郎	105	1 4	田村 昶三	106	2 4	水口 薫	108
0 5	毛利進太郎	105	1 5	田村 昶三	106	2 5	水口 薫	108
0 6	巖 圭介	105	1 6	田村 昶三	106	2 6	水口 薫	108
0 7	巖 圭介	105	1 7	田村 昶三	106	2 7	水口 薫	108
0 8	岩田 賢造	106	1 8	藤間 真	107	2 8	水口 薫	108
0 9	岩田 賢造	106	1 9	永田 淳次	107	2 9	水口 薫	108
1 0	岩田 賢造	106	2 0	永田 淳次	107	3 0	水口 薫	108

〔注意〕

1. 実習をともなう授業のため、1クラスの受講生は35名以内に制限する。従って応募者が定員を超えた場合、クラスへ参加できないことがある。
2. どのクラスも出席を重視する。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからである。
3. どのクラスも今までコンピュータに触れたことのない者を対象として、初歩的なコンピュタリテラシーの伝授を行うことを目的としている。
4. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、「クラス一覧表」のようなクラス分けを行う。
5. 学則上、この科目は、共通自由科目（共通系）（2単位）・社会福祉学科自由科目（2単位）に位置づけられている。
6. 募集は、次の日程で実施する。

〈申込受付〉学務課窓口

00E・SS・B・L生…4月7日（金）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

96～99E・S・SS・SW・B・L生…3月31日（金）～4月1日（土）9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈クラス発表〉4月12日（水）アンデレ館下掲示板

7. 申込方法

- ・「コンピュータ利用Ⅰ予備登録票」に必要事項を記入して提出すること。
- ・希望するクラスを3つ以内記入のこと。ただし、同一クラスを記入しないこと。
- ・時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意すること。

〈注〉経営学部生対象の「プログラミング論B」と「コンピュータ利用Ⅰ」については、どちらか一方しか履修・修得することができないので注意すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	0 1 0 2 1 2 1 3	9 月 集中 9 月 集中 前 期 後 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	島 田 文 彦
【講義概要・学習目標】 近年、コンピュータは「読み（＝情報の取得）」「書き（＝情報の作成）」「そろばん（＝情報の加工）」のための道具としてだけでなく、コミュニケーションの手段としての働きにも注目が集められている。これにより、コンピュータは情報にかかわる祭の手段としてより大きな役割を持つようになっている。 また、現在ではコンピュータの機能は多様化・高度化し、得られる情報も大型・複雑化してきた。しかし、それに伴って、機能や情報に振り回される危険性も出てきたため、目的に合わせて機能を使いこなす必要が出てきた。 本講義では、情報の取得。加工。発信を中心とした主なアプリケーション群の使い方を学ぶことと、その知識を用いてコンピュータ、アプリケーションの基本構造を理解し、本講義では触れない他のアプリケーションについてもその道具としての使い方を直感的に理解し、十分その機能を使いこなせるような力をつけることを目的とする。		【講義計画】 ・コンピュータの概要と操作方法 ・文書の作成 ・情報の加工 ・コミュニケーション ・情報の取得と検索 ：共通した操作方法の理解 ：ワープロを用いた文書の作成と修飾 ：表計算ソフトを用いた情報の加工 ：電子メールソフトによる情報の伝達 ：WWW の効率的な利用		
【成績評価の方法】 講義時の課題、レポート、出席により評価する。		【参考文献】 桃山学院大学計算機センター（編） 『桃山学院大学計算機センターユーザーズガイド』		
【教科書】 無し				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	03	9月集中	2 単位	水 口 薫
〔講義概要・学習目標〕		〔講義計画〕		
近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。		1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性、活用について		
〔成績評価の方法〕		〔参考文献〕		
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。				
〔教科書〕				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用I	04 05	9月集中 9月集中	2単位 2単位	毛利進太郎
[講義概要・学習目標] 近年、コンピュータの発達により、単に計算を行うだけでなく様々な場面で活用されるようになってきている。またインターネットの発達により、様々な情報が電子的に流通し、また発信することが可能となってきている。そこではコンピュータの専門的知識だけではなく、道具として扱うことができる知識が必要となる。 そこで本講義ではコンピュータの基本的な概念を学習し、加えてそれらを身近な道具として用い、またインターネット上の様々の情報を活用するための知識を演習を通して習得することを目的とする。	[講義計画] 以下の事柄について講義を行う予定である。 1. コンピュータの基礎的概念 2. Windows95の操作 3. ワープロによる文書の作成 4. インターネット（電子メール, WWW）の活用 5. 表計算の基本的操作 各項目について数回の演習を主体とした講義を行う			
[成績評価の方法] 随時課題を出し、出席状況と合わせて評価を行う。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター 「桃山学院大学計算機センター ユーザーズ・ガイド」			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	06 07	前期 後期	2単位 2単位	巖 圭 介
[講義概要・学習目標] コンピュータを使わずに仕事をすることがありえない時代になってきた。少し前ならコンピュータ使用の経験は特技としてアピールできたが、今では使えて当たり前。ワープロを使いこなせないのは字が書けないのと同じ、電子メールを使えないのは電話の使い方を知らないのと同じである。 一方で、年々ますます高性能になるコンピュータは、様々なことを可能にする魔法の箱でもある。インターネットも無限の可能性を秘めて日々成長している。このようなコンピュータの世界を知らずにいることは、人生の損失以外の何ものでもない。 この授業では、コンピュータに触ったことのない人を対象に、コンピュータの基礎を学んでもらう。ワープロ、表計算などビジネスで必要とされる基礎技術に加え、プレゼンテーション、ホームページの作成など、コンピュータの楽しさも味わってもらえる授業にしたい。 コンピュータは道具である以上、頭で理解するだけではなく実際に使って身体で覚えてもらわねばならない。毎回出席することはもちろんだが、自由時間に自習する必要がある。	[講義計画] 下記の項目について実習を行う。 ・コンピュータのさわり方 ・キーボード入力 ・電子メール ・インターネット ・ワードプロセッサ ・表計算 ・プレゼンテーション ・ホームページの作り方			
[成績評価の方法] 出席状況と期末の実技テストによる	[参考文献] とくになし			
[教科書] 桃山学院大学計算機センター編「ユーザーズガイド」 (最初の授業で支給します)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	08 09 10 11	前期 後期 前期 後期	2単位 2単位 2単位 2単位	岩田 賢造
【講義概要・学習目標】 インターネットの普及に伴い、エレクトロニック・コマース（EC）など新しい情報技術（IT）を利用した、新しい事業やベンチャー企業が出現しています。 日本は、情報化においてアメリカに大きく遅れをとっていますが、日本経済の再生には情報技術（IT）の効果的な利用が必須になります。 授業では、コンピュータを利用する上で必要な、基本的な知識・操作方法について学んで頂くと共に、コンピュータをツールとして利用している企業の事例などについて概説します。	【講義計画】 1) パーソナル・コンピュータの概要 2) キーボード練習と基本操作 3) 電子メールの基礎 4) インターネットの基本操作 5) ワードプロセッサ 6) 表計算ソフトの活用 7) データ分析とグラフ表現 8) その他の情報活用技法と事例紹介			
【成績評価の方法】 出席を重視します。数回のレポートとテストによる 総合評価を行います。 予習・復習などは時間外に行なっていただきます。	【参考文献】 桃山学院大学計算機センター編の「ユーザーズガイド」を利用します。			
【教科書】 必要に応じて指示します。 ・教材は、主にプリントにて配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	14 15 16 17	前期 後期 前期 後期	2単位 2単位 2単位 2単位	田 村 昶 三
【講義概要・学習目標】 パソコンを使ったインターネット（電子メールとWWW）は常識になった。しかし、習熟するには、時間とエネルギーがかかる。それを効率的に勉強するパソコン入門者を対象とするパソコン基礎習得を目的とする。パソコンを道具として使いきるためには、避けて通れない「壁」があります。その壁を越えるための授業です。パソコンの「基礎の基礎」を勉強します。 情報処理は大まかに(1)情報収集－(2)情報整理－(3)情報伝達－(1)情報保管・蓄積－(5)情報検索の段階に分けられる。この中で(2)－(3)を中心にコミュニケーションの手段としてのパソコンを実習を通して基礎から勉強を始めます。 ビジネスで使われる文書・書類を中心に日本商工会議所検定試験（ワープロ・表計算）の受験を目標にします。検定合格レベルになるには相当な努力が要る。サポートしますので積極的に自習をしてください。 初心者を対象にパソコン基本操作から始めます。パソコンの基礎の基礎といわれる所を十分に身につけ、あとは自分で努力することにより身につきます。そのknow-howも勉強します。	【講義計画】 1. パソコンについて 2. パソコンの基本操作（キータッチ） 3. ワードプロソフト（文字入力、文書作成編集、美しい文書表現） 4. 表計算（データとグラフ）（データ入力、表の作り方、グラフ作成） 5. POWER POINT の使い方 6. インターネットの利用（WWW、電子メール、メールマガジン） 7. 情報保管蓄積、情報検索 8. ファイリングとキャビネット 9. 情報技術（IT）を活用するには			
【成績評価の方法】 出席が3分の2以上で、電子メールによる提出、毎週の理解度テスト、学期末試験により総合的に評価 する。	【参考文献】 桃山学院大学計算センター（編）『ユーザーズガイド』			
【教科書】 教材は、プリントで配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	1 8	前 期	2 単位	藤間 真
〔講義概要・学習目標〕 「読み書きソロバン」とは、古来から言われている必要技能である。ところが、近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴い、コンピュータを操る能力もまた基本的な技能として要求されるようになってきた。 本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、タッチメソッド（キーボードに目を向けずに両手で入力する技能）を中心に、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。 本講義は、初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的としているので、コンピュータの経験を持つものは遠慮されたい。 また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。	〔講義計画〕 下記の項目について説明した上で、実習を行う。 ・パソコンについて ・タッチメソッドの修得 ・電子メール ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・WWWブラウザソフト			
〔成績評価の方法〕 出席状況、実習の成果物の提出（数回を予定している）及び学期末の試験により評価する。	〔参考文献〕 ・ 進行状態に応じて指示する。			
〔教科書〕 桃山学院大学計算機センター編 ユーザーズガイド				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	1 9 2 0 2 1 2 2	前 期 後 期 前 期 後 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	永 田 淳 次
〔講義概要・学習目標〕 コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特長を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。 本講義では、初心者がコンピュータの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。 また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。	〔講義計画〕 1. コンピュータの概要と基本的な操作 2. メールによるコミュニケーション 3. 日本語文書の作成 4. インターネットの基礎知識 5. プレゼンテーション			
〔成績評価の方法〕 課題の提出物による総合評価。出席は3分の2以上。	〔参考文献〕 桃山学院大学計算機センター編『ユーザーズガイド』			
〔教科書〕 必要に応じてプリントを配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	2 3 2 5 2 7 2 9	前 期 前 期 前 期 前 期	2 単位 2 単位 2 単位 2 単位	水 口 薫
【講義概要・学習目標】		【講義計画】		
近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。		1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性、活用について		
【成績評価の方法】		【参考文献】		
講義時の課題、レポート、出席により総合評価。				
【教科書】				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	24 26 28 30	後 期 後 期 後 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	水 口 薫
【講義概要・学習目標】 近年、情報化社会の特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会の発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。 本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作だけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。	【講義計画】 1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）の概要 2. コンピュータの基本操作とキーボード練習 3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト） 4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト） 5. ネットワークと情報検索（インターネット） 6. ネットワークと情報交換（e-mail、データ転送） 7. コンピュータの可能性、活用について			
【成績評価の方法】 講義時の課題、レポート、出席により総合評価。	【参考文献】			
【教科書】 「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II		前期集中	4 単位	藤間 真
〔講義概要・学習目標〕 本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。 コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何ができるかを伝授するだけではなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。 履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい： ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・計算機センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・実習主体の講義であり、自習も必要となる。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。	〔講義計画〕 ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・情報検索の基礎 ・unixの基礎 ・オブジェクト指向とJava			
〔成績評価の方法〕 学期末レポートを主に、平常成績を考慮し、総合的に評価する。	〔参考文献〕 進行状況に応じて指示する。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
有限数学		通期	4 単位	大崎 浩一
[講義概要・学習目標] 小中高と学んでいくうち、数学が嫌いになった人は多いと思います。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人もいるでしょう。 しかし、数学は無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に議論を進めることや、定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。 本講義の目的は、理性的に議論を進め、他人と合意に達するための道具としての数学に光を当てることにあります。言い換えると、丸暗記したものを吐き出すだけの数学を扱うことはしません。 高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあるでしょうが、まったく新しい切り口で扱います。 連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意して下さい。	[講義計画] <前期> ・論理学の基礎 ・集合論の基礎 (筋道ある考えや表現法の基礎である論理学と、現代数学の基本的道具である集合論を扱います) <後期> ・ベクトルと行列の基礎 ・ベクトルと行列の応用 (「いくつかの数をまとめて扱うため、数の概念を拡張する」、という視点からベクトルと行列を取り上げ、のち、基礎だけで展開できる応用問題を扱います)			
[成績評価の方法] 学年末の試験を中心に、平常成績を考慮して評価します。	[参考文献] 細井 勉著、教養の数学、新曜社 大村 平著、論理と集合のはなし、日科技連出版社 大村 平著、行列とベクトルのはなし、日科技連出版社			
[教科書] 指定なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
解析学		通期	4 単位	大崎 浩一
〔講義概要・学習目標〕 小中高と学んでいくうち、数学が嫌いになった人は多いと思います。無味乾燥で現実と無関係だと印象を持っている人もいるでしょう。 しかし、数学は無味乾燥な知識体系として突然出現したのではなく、他人と理性的に議論を進めることや、定量的に物事を扱うことから発展した知識体系です。 本講義の目的は ・“変化”を抽象的に捉える枠組みである関数概念の理解、 ・関数を扱うための学問である微分積分の初歩の理解、 ・数学を扱うソフトウェアに慣れること です。 高校での数学の知識は要求しません。内容的には高校までの数学と重複することもあります。全く新しい切り口で扱います。 連絡は掲示によって行いますから、常に掲示に留意して下さい。		〔講義計画〕 <前期> ・Macintosh の初歩 ・Mathematica の初歩 ・関数とは ・関数の実例 ・極限とは ・微分とは <後期> ・微分とは（承前） ・積分とは ・応用（受講生の状況に応じて扱う応用の範囲を決めます）		
〔成績評価の方法〕 学年末試験の成績を中心に平常成績を考慮して評価します。		〔参考文献〕 井上 真著、見る微分積分学-Mathematica によるイメージトレーニング-、東京電機大学出版局 一松 信著、初等関数概説-いろいろな関数-、森北出版 一松 信著、微分積分 I 初めて学ぶ人に、丸善 黒田 俊郎著、指数・対数のしくみ、三省堂 黒田 俊郎著、三角比のろまん、三省堂		
〔教科書〕 黒田 俊郎著、微分のひみつ、三省堂 黒田 俊郎著、積分のいずみ、三省堂				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ（一神教の系譜）		前 期	2 単位	滝 澤 武 人
〔講義概要・学習目標〕 古代の西アジア（いわゆる中近東）の砂漠的な風土の中から、いくつかの世界的な大宗教が成立した。ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教という四つの一神教の宗教がそれである。いずれも日本においては余りなじみのない宗教であろうが、今もなおさまざまな形で世界中の人々に意識的にせよ無意識的にせよ大きな影響を与え続けている。 この総合講座においては、それぞれの宗教の専門家である四人の研究者が、それぞれの宗教に関する最低限の教養としてのコンパクトな知識を授けることを目標としている。各宗教の創始者・教典・歴史・現代的意義などをできるだけ簡潔に紹介する。古代世界の宗教に関心を有する真面目な学生諸君の熱心で積極的な受講を期待している。	〔講義計画〕 次のような順番で講義する予定である。 ゾロアスター教（森茂男先生） 3 回 ユダヤ教（古畑正富先生） 3 回 イスラム教（嶋本隆光先生） 3 回 キリスト教（滝澤武人先生） 3 回			
〔成績評価の方法〕 試験、出席、レポートなどを総合的に評価する。	〔参考文献〕 担当者が必要に応じてその都度指定する。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
総合講座Ⅰ（泉州の今昔Ⅱ）		後 期	2 単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] 泉州の今昔Ⅱは「産業社会」篇である。桃山学院大学の立地する泉州地区に関して、その産業と社会を概観する。なお総合講座であるので、毎回講師が変わり、それぞれのフィールドに基づいて講義がなされる。	[講義計画] 講義の最初に講師の顔ぶれと講義内容についての予定表を配布する。			
[成績評価の方法] 毎回出席を取るものでその出席状況、及び学年末に試験を行い、総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書] 特に定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ																		
総合講座Ⅰ ITの活用の実際		前 期	2 単位	藤間 真																		
〔講義概要・学習目標〕 本年始におけるY2K問題を見てもわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。 本講義では、各業種で第一線でITを活用している現場の皆さんに来ていただいて、最先端の企業の活用状況を話していただく。 内容的には、コンピュータと情報通信、特にWEBコンピューティングが中心となる。 また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。	〔講義計画〕 1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。講義に関する詳細もそこで提示するので、出席した上で履修するかどうかを決められたい。 2回目以降に予定している内容は下記のとおりである。(順不同) <table><tr><th>招聘元企業</th><th>予定題目</th></tr><tr><td>CSK</td><td>「CSKにおけるECの推進」</td></tr><tr><td>武田薬品工業</td><td>「SAPを使った経営情報の構築」</td></tr><tr><td>鐘淵化学工業</td><td>「基幹業務のアウトソーシング」</td></tr><tr><td>ニフティ</td><td>「プロバイダーの現状」</td></tr><tr><td>クボタ</td><td>「技術部門における技術情報の処理」</td></tr><tr><td>NEC</td><td>「コンピュータ教育について」</td></tr><tr><td>松下電器</td><td>「SCMの資材受発注」</td></tr><tr><td>大阪瓦斯</td><td>「公的インフラから見たY2K」</td></tr></table> 尚、本学からは経営学部の井上教授と藤間がそれぞれ講義を行う。				招聘元企業	予定題目	CSK	「CSKにおけるECの推進」	武田薬品工業	「SAPを使った経営情報の構築」	鐘淵化学工業	「基幹業務のアウトソーシング」	ニフティ	「プロバイダーの現状」	クボタ	「技術部門における技術情報の処理」	NEC	「コンピュータ教育について」	松下電器	「SCMの資材受発注」	大阪瓦斯	「公的インフラから見たY2K」
招聘元企業	予定題目																					
CSK	「CSKにおけるECの推進」																					
武田薬品工業	「SAPを使った経営情報の構築」																					
鐘淵化学工業	「基幹業務のアウトソーシング」																					
ニフティ	「プロバイダーの現状」																					
クボタ	「技術部門における技術情報の処理」																					
NEC	「コンピュータ教育について」																					
松下電器	「SCMの資材受発注」																					
大阪瓦斯	「公的インフラから見たY2K」																					
〔成績評価の方法〕 毎回の出席・受講態度を中心に総合的に評価する。	〔参考文献〕 講義中に指示する。																					
〔教科書〕																						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅱ (地域の歴史と文化財保存)		通 期	4 単位	佐賀 朝
〔講義概要・学習目標〕 先行きの見えない状況の現代において、未来に向けた選択を行うにあたり、われわれがまず振り返るのは過去の事実である。われわれは過去のさまざまな歴史、とりわけ、われわれが日常生活を送っている身近な地域の歴史から何を学ぶことができるだろうか。本講義では、歴史学の分野における地域史研究と、それが対象としてきた地域の多様な文化遺産について学び、地域の歴史を学ぶことの現代的意義、あるいは歴史学という学問の社会的役割などについて考えたい。その際、具体的には、 ①われわれが日々暮らし、働き、そして学んでいる地域には、その歴史を知ることのできる史料＝文化財がどのような形で存在しているのか ②地域に残された様々な文化財＝史料から、学問的方法を通じてどのような地域の歴史を明らかにできるのか ③地域の文化財保存は、これまでどのように取り組まれてきたのか、また現在どのような状況にあるのか 以上の三つを柱に、各時代・各分野で地域史の研究や史料保存に携わっている専門家を何人か招き、リレー講義の形で論じる。講義のなかで取り上げる具体的な地域としては、大学のある和泉地域をはじめ、近畿地方を中心とする。	〔講義計画〕 （前期）文化財保存各論 考古学における資料／埋蔵文化財の調査／文化財保存運動 中世荘園の世界／絵図から読みとる荘園世界／荘園景観の保存 阪神淡路大震災と文化財保存／住民参加の自治体史 現代の資料を未来に残す／地域文書館の活動 ほか （後期）和泉市の地域史と文化財 池上・曽根遺跡／和泉地域の古代史 自治体史編纂と史料保存／史料調査とは何か 江戸時代の村の古文書／村の生活と社会 近代化のなかの和泉地域／聞き取りとフィールドワーク ほか			
〔成績評価の方法〕 出席、各講師による小テスト・レポートなどを総合的に評価する。	〔参考文献〕 講義のなかで各講師が随時、提示する。			
〔教科書〕 各講師がプリント等を配付する。	◆注意事項◆ 1999年度の総合講座Ⅰ地域の歴史と文化財保存Ⅰ（前期）と同Ⅱ（後期）のいずれかをすでに受講した者は、内容に重複があるため、原則として本講義を受講することは避けるように。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅱ－核の時代		通 期	4 単位	後 藤 邦 夫
〔講義概要・学習目標〕 20世紀の100年を振り返るとき、二つの世界大戦と40年以上も続いた「米ソの冷戦」がもっとも印象的である。そして、世紀の後半の世界にもっとも影響を与えたのは核兵器の存在である。実は世紀の初め、1900年前後に、放射能の発見、ラジウムが発見があり、原子核研究の第一歩が始まったのである。その意味では、20世紀を「核の世紀」あるいは「核の時代」と呼ぶことが出来るだろう。しかもそのなかで、日本は核兵器が実戦で投下されて多数の犠牲者を出したという特別な位置を占めている。この総合講座では、「核」という特別な問題を通して20世紀という時代を見つめ直してみよう。科学的真理と文明の進歩を追及する中で、人類は大変な問題を背負い込んだ。今年は2000年。この歴史を考えるのにふさわしい年である。	〔講義計画〕 以下のテーマをそれぞれの担当者が連携しつつ講ずる。 (1) 原子核と核反応について。 (2) ナチス体制と第2次世界大戦 (3) マンハッタン計画と日本への原爆投下 (4) 冷戦下の核軍拡競争 (5) 核の商業利用 (6) 冷戦の終結と地域紛争・核拡散の危機 (7) 日本の核問題：原子力発電、「もんじゅ」、「臨界事故」			
〔成績評価の方法〕 期末のテストの結果が中心であるが、各時間ごとにレポートを課し、あわせて評価する。	〔参考文献〕 多くの良書がある。講義に際して各担当者から示される。			
〔教科書〕 使用しない。必要に応じプリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
総合講座Ⅱ（多文化共生社会）		通 期	4 単位	遠 山 淳
【講義概要・学習目標】 20世紀は国家という概念の普及とともに、民族の生存をかけて激動した。民族の統合と分化の世紀でもあった。その鍵概念は民族と文化。 本講座では、世界に存在する多文化社会を知り、現在の日本が、例外的に単一文化的要素が極めて濃い、むしろ少数派国家であることを学ぶ。 また、国家の形成と民族関係、文化の形成についても講じるが、世界の中から、いくつかの国家・社会を選び、それらの地域における多民族・多文化と共生の現状と展望について考察する。21世紀における多文化共生社会の有り様を、日本と世界に求め、また、民族紛争と調停機関である国連や国際機構の機能と展望についても講じる。	【講義計画】 1. はじめに：現代世界の現状と展望（順不同） 2. 国連および国際機構の機能と展望 3. アングロサクソン世界～各論研究：英国の場合 4. 各論研究：アメリカ合衆国の場合 5. 各論研究：カナダの場合 6. 各論研究：オーストラリアの場合 7. 各論研究：中南米の場合 8. 各論研究：中国の場合 9. 各論研究：台湾の場合 10. 多文化共生社会への道：日本の場合～はじめに 11. 各論研究：定住外国人問題と地方参政権運動 12. 各論研究：外国人教員任用運動と国公立大学教員に関する実態調査			
【成績評価の方法】 各講義後に行う「まとめ」、「クイズ」により総合的に評価する。	【参考文献】 授業中に紹介する。			
【教科書】 授業中に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情 (外国人留学生用)		通 期	4 単位	下 條 正 純
【講義概要・学習目標】 現代の日本を象徴する様々なトピックについて、教科書をはじめ、新聞、雑誌、テレビ番組、ビデオ等を通して理解を深める。教科書各章のトピックは、「日本人の『働き方』」、「若者の選択」、「家族とは」、「日本人の意識」、「揺れる日本語」、「『食』事情」、「人間都市」、「国際社会における日本」、「真の豊かさ」、「共生を求めて」である。このほかに、医療問題、環境問題、社会風俗や、大阪、京都、神戸などの地域社会についても取り上げる予定である。	【講義計画】 授業は、教師が説明するだけでなく、学生の皆さんにもトピックに関する意見や疑問を出してもらう。教室を積極的に意見や情報を交換する場としたい。 また、本講の受講生は、最後に研究レポートの提出が課せられる。前期の授業等を通して、各自研究テーマを決めてレポートの準備を進める。後期に中間報告として研究成果を発表をする。教師や他の学生の意見を聞いて、必要であれば修正等を加え、レポートを完成させていく。			
【成績評価の方法】 クラス参加、レポート、発表	【参考文献】 必要に応じて紹介する。			
【教科書】 『過渡期の「日本」を考える』 三牧陽子、村岡貴子、伊藤博子 共著（凡人社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学		通 期	4 単位	清 水 真 一
【講義概要・学習目標】 我々人間は母語を自由にあやつる。まことに不思議である。それを可能にしている正体は何なのか？ 直接的な仕方では接近することが未だ困難なこの問いに対する極々基本的な一つの接近を試みたい。本講では、まず、科学としての言語学をその隣接分野とのかかわりの中で眺め、できうる限り明示的なかたちで「言語」にアプローチしてみたい。前半は、そのための分析道具、とりわけ数理論的側面の基本に習熟することに努める。しかる後、「言語」の基本構造についての考え方を紹介することをおして、受講生各位に、人間を人間たらしめている言語につき今一度思索をめぐらす契機を提供したい。出席は特に重視する。		【講義計画】 (1) 「コミュニケーション」システムについての比較論的考察 (2) 数理論的基本の準備：集合/論理と言語 (3) 形式文法入門 (4) 句構造文法に向けて		
【成績評価の方法】 原則として、定期試験、クイズ、出席に基づき総合的に評価する。		【参考文献】		
【教科書】 フリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論理学		通 期	4 単位	清 水 真 一
【講義概要・学習目標】 我々は考える。論理的に考えることは、ものごとを思考するときの基本である。思考の筋道やいかに？ 日常生活の中で安易に納得していること、また、自明であると連断してしまっていることのなかには、思考の筋道を考えなおしてみると、手に負えないほど厄介であることが数多くあると感じた学生諸君もおられると思う。また、そのようなことは自分の性に合わないとはじめから決め込んでいる方もおられよう。本講では、「論理学」の高度な技術に深入りすることなく、日常生活のなかに題材を見つながら論理の基本を学修していくことを目標とする。なお、本講の性格上、「計算」などの訓練を避けてとおることができない。従って、毎回、講義の一部を練習問題に費やすことになる。自ずと出席重視とならざるをえない。		【講義計画】 前期 ・日常生活のなかの論理 ・思考の法則 ・命題の論理 ・試験 後期 ・述語の論理 ・様相の論理 ・試験		
【成績評価の方法】 出席・小テスト・期末試験に基づき総合的に評価する。		【参考文献】		
【教科書】 山川・清水(共著)『論理開眼』(世界思想社)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
倫理学		通 期	4 単位	木 下 昌 巳
【講義概要・学習目標】		【講義計画】		
「生命倫理」をテーマとして講義をおこなう。 「生命倫理」とは、倫理学のなかでは比較的新しく生まれた一分野であり、安楽死、臓器移植、人口妊娠中絶、クローン人間の作成など、従来の医療行為のなかでは禁止されていた行為の許容基準を明らかにする目的でつくられた学問である。医学の技術の進歩は、人間の死とは脳の死なのか、心臓の死なのか？自分の遺体についての決定権をもつのは自分なのか、家族なのか？クローン人間の製造は許されるのか？などといった、これまでにはなかったような新たな種類の倫理的な問いをわれわれに突き付けることになった。これらの問題に答えようとするとき、われわれは、これまで日常生活のなかで疑わずにいたさまざまな価値の意味をあらためて問うことになる。本講義では、これらの問題の複雑な論点を整理し、解決の方向性を探っていくことにする。		前期は生命倫理固有の問題に焦点を絞り、インフォーム・コンセント、臓器移植、脳死、クローン人間といったテーマを個別に論じていく。後期では、前期の内容を前提としてその背後にある倫理学の根源的な問題を概観・検討する予定である。		
【成績評価の方法】		【参考文献】		
学期末試験 80点 授業中に提出するエッセイ（3回程度実施する予定） 20点 以上の100点満点で評価する。		加藤尚武『脳死・クローン・遺伝子治療——バイオエシックスの練習問題』（PHP新書）		
【教科書】				
とくに指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代思想		通 期	4 単位	岩津 洋二
〔講義概要・学習目標〕 私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのを怖がる。すこしふりかえってみると、じつにさまざまな恐怖が私たちの生活につきまとっており、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思い止まり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は少ない。 この講義は、哲学のみならず、心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から、恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。恐怖という視点をとおして、世界と自分自身を再発見する試みといってもよい。	〔講義計画〕 1. なぜ恐怖を問題とするのか 2. 恐怖の諸相－恐怖の分類 3. 近代社会における恐怖のとりえ方 4. 恐怖の心理＝生理学 5. 恐怖の過剰性 6. 対人恐怖症と日本文化 7. 恐怖としての和合 8. 日本の伝統的恐怖対象 9. 未開の恐怖と近代の恐怖 10. 恐怖の利用 11. 集合的恐怖 12. 恐怖の愛好 13. 恐怖への対処の仕方			
〔成績評価の方法〕 何回かのレポートと学年末の試験による。	〔参考文献〕 授業中に指示する。			
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会思想		通 期	4 単位	坂 昌 樹
【講義概要・学習目標】 社会的存在である人は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて諸説が論じられています。これらの諸思想は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかいま見ようと思います。 学習の重点は、西洋近代の市民的個人主義の構築とその展開にあります。思想といえば抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思っています。	【講義計画】 1. 導入：社会思想とはなにか、中世のキリスト教的世界観 2. 近代的主体の析出：マキアヴェッリ、ルター 3. 市民的個人主義の国家構想：ホッブズ、ロック、ルソー、カント 4. 市民的個人主義の社会構想：スミス、J. S. ミル 5. 市民的個人主義への批判：ヘーゲル、マルクス、女性解放思想			
【成績評価の方法】 学期末試験を中心にして総合的に評価する。	【参考文献】 必要があれば、講義中に指示します。			
【教科書】 指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
【講義概要・学習目標】 通常、近代とは明治～第二次大戦中まで、現代とは戦後～現在までを指す。この講義では日本近代の思想を日本の歴史的位置付け、家、天皇制、アジア観などをポイントとして、問題史的に追究する。	【講義計画】 1. 日本の歴史的位置付け(丸山真男『日本政治思想史研究』など) 2. 家(柳田国男『先祖の話』など) 3. 天皇制(美濃部達吉『憲法撮要』、上杉慎吉『憲法述義』など) 4. アジア観(津田左右吉『シナ思想と日本』など)			
【成績評価の方法】 期末試験。(講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難)	【参考文献】			
【教科書】 資料を西配布する。ただし、西配布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加西配布や持参するのを忘れた人に対する再西配布は行わない。毎時資料と参照しなければ講義の理解は困難になる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	01	通 期	4 単位	冷水 啓子
[講義概要・学習目標] 1 心理学の概要を理解させる。 2 乳幼児期・児童期・青年期・老年期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解させる。 3 心理学理論による人間理解とその技法の基礎について理解させる。 4 心理的援助技法の概要について理解させる。 5 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。	[講義計画] 1 人間の心理学的理解 1) 欲求・動機づけと行動 2) 感情・情動 3) 感覚・知覚・認知 4) 学習・記憶・思考 5) 知能・創造性 6) 人格 7) 適応と適応異常 2 人間の成長・発達と心理 3 人間理解のための心理学理論と技法 1) 基礎理論 ①精神分析 ②行動分析 2) 測定と診断 ①発達 ②知能 ③性格 4 心理的援助技法の概要 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法） 2) 家族心理療法 3) 行動療法 他は授業時に提示する。			
[成績評価の方法] 学年末に試験を実施する。必要に応じて、簡単な実験・調査への参加やレポート提出などを求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。	[参考文献] 市川伸一（編）『心理測定法への招待』（サイエンス社） 松原達哉（編）『最新 心理テスト法入門』（日本文化科学社） 中島義明（編）『メディアに学ぶ心理学』（有斐閣） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）			
[教科書] 福祉士養成講座編集委員会（編）『心理学』（中央法規）				

＜社会福祉学科生対象外＞

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	02	通 期	4 単位	伊 藤 高 章
[講義概要・学習目標] Psychology という語は、語源的には魂（たましい）もしくは霊に関する学問という意味である。そして、人類の歴史においてこの魂や霊のことがらは、永く宗教が扱ってきた。本講義では前期において、宗教と心理学との関係を明らかにしてゆくことを通し、近代心理学のもつ人間観の特徴を理解することを目指す。その際特に、フロイトとユングが展開した無意識に関する理論に注目する。後期においては、他者の魂の声に耳を傾ける姿勢を養う意味で、カウンセリング及び「カウンセリング・マインド」について学ぶ。	[講義計画] 以下の内容を含む ＜前期＞ 諸宗教における心のケア フロイトの宗教観・人間観 ユングの宗教観・人間観 近代心理学の展開 ＜後期＞ カウンセリングの人間観 カウンセリング理論の前提 カウンセリングの理論			
[成績評価の方法] 出席を重視する。 教科書のほかに3～4冊分のブック・レポートを課す。 学年末試験。	[参考文献]			
[教科書] 山中康裕（1996）『臨床ユング心理学入門』（PHP新書 004） 小此木啓吾（1989）『フロイト』（講談社学術文庫 860） 平木典子（1989）『カウンセリングの話 増補』（朝日選書 375）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	03 04	通 期 通 期	4 単位 4 単位	伊 藤 正 人
【講義概要・学習目標】 現代の心理学では、実験や観察という客観的方法により、ヒトや動物の行うあらゆる行動を組織的に研究する。心理学の課題は、このような行動へ影響する様々な要因を探索し、行動の原理（法則）を定式化し、我々の日常場面における様々な複雑な行動を説明することである。近代心理学の出発点は、ドイツの心理学者Wundtがライプツヒ大学に世界で最初の心理学実験室を創設した1879年にさかのぼる。現在までおよそ120年の現代心理学の歴史は、「こころ」という多義的で曖昧な対象をどの様に捉えるかということに腐心してきた足跡であるといえる。このような先達の努力を振り返ることは、真の意味で心理学の理解を深めることになる。 本講義は、心理学の歴史をたどりながら、現代心理学の課題を理解するための枠組みを提示する。また、教室で心理学の実験を行い、受講者が被験者となることで、心理学のより深い理解を促進させる。		【講義計画】 前期では、まず、心理学の歴史を振り返り、現代心理学の課題を提示する。続いて、心理学の各領域の課題を網羅的に眺めてみる。取り上げる領域は、行動・学習、動機づけ・情動、知覚・認知、パーソナリティである。 後期では、心理学の領域のうち、学習の問題に焦点を当て、「学習の原理」が我々の日常場面の様々な行動にどの様に適用出来るのかを考える。また、名作映画のなかに現れる心理学の問題を取り上げて題材としたい。取り上げる映画は、以下のものである。 「時計じかけのオレンジ」(1971年)、「オズの魔法使い」(1939年)、「羊たちの沈黙」(1991年)、「2001年宇宙の旅」(1968年)、「心の旅路」(1942年) 各自レンタルビデオ等で見ておくこと。		
【成績評価の方法】 成績評価は、講義中に行う数回の小テストと学年末試験による。		【参考文献】 心理学事典 平凡社 現代基礎心理学全12巻 東京大学出版会 行動心理ハンドブック 培風館 心理学双書全10巻 有斐閣 「メイザーの学習と行動」二瓶社		
【教科書】 糸魚川・春木編「心理学の基礎」（前期）有斐閣 佐藤方哉 「行動理論への招待」（後期）大修館				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
心理学	05	通年	4 単位	林 陸 雄
【講義概要・学習目標】 個々の人間について、その特性を的確に把握し理解することは困難である。しかし、現実社会が多くの多様な価値観と生き方をもつ人々によって構成され、それらの人々の相互作用によって営まれている以上、人々にとって的確な人間理解能力は必要不可欠といえよう。 個々の人間理解の前段として、一般的にいう人間とは何か、人間はどのように行動するのかについて、現代心理学の立場から概観する。 テキストを中心に展開するが、時には、ビデオ視聴または指定図書の閲覧によって人間理解を深める工夫をしたい。小レポートはそれらに関連して課すので、出席常ならざる履修生は、情報入手ならびに対応で苦慮することになるであろう。要注意である。		【講義計画】 1. 心理学とは1 2. 心理学とは2 3. 知覚の仕組み1 4. 知覚の仕組み2 5. 知覚の仕組み3 6. 記憶の仕組み1 7. 記憶の仕組み2 8. 記憶の仕組み3 9. 思考の仕組み1 10. 思考の仕組み2 11. 思考の仕組み3 12. 前期の補足1 13. 前期の補足2 14. 前期のまとめ1 15. 前期のまとめ2 16. 社会的認知の仕組み1 17. 社会的認知の仕組み2 18. 社会的認知の仕組み3 19. 感情の働き 20. 動機づけとは 21. パーソナリティとは1 22. パーソナリティとは2 23. パーソナリティとは3 24. 発達と成長1 25. 発達と成長2 26. 発達と成長3 27. 後期の補足1 28. 後期の補足2 29. 後期のまとめ1 30. 後期のまとめ2		
【成績評価の方法】 2/3以上の出席、数回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。		【参考文献】 授業中に適宜紹介する。		
【教科書】 北尾倫彦、中島実、井上毅、石王敦子 共著 『グラフィック 心理学』 サイエンス社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教概論		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
〔講義概要・学習目標〕 キリスト教の根本經典である『聖書』、特に「新約聖書」をできるだけ多く読むことがこの講義の目標である。それを通して、今日のキリスト教や教会についても論ずることになる。もちろん、大学という場においては、理性的・学問的な研究成果を土台とすることになるので、「信仰」の有無などには全く関係なく受講できる。 いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。教養としてぜひ『聖書』に親しんでもらいたい。	〔講義計画〕 前期に主として四つの「福音書」、後期に「パウロ書簡」や「ヨハネ黙示録」等を読み進める予定である。人数にもよるが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。なお、教科書として指定した『新約聖書』は必ず毎時間持参すること。			
〔成績評価の方法〕 試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。	〔参考文献〕 AERA Mook 『新約聖書がわかる。』（朝日新聞社）			
〔教科書〕 新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） （授業時には必ず毎時間持参すること。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教史		通 期	4 単位	伊 藤 高 章
〔講義概要・学習目標〕 ヨーロッパ宗教改革に対するカトリック側の反宗教改革運動の中で成立したイエズス会、及びイエズス会士フランシスコ・ザビエルの活動を手がかりに、近世のキリスト教の歴史を広く学ぶ。またこの時代のヨーロッパの国際関係、海外貿易、帝国主義的な進出にも言及し、教会の側からみた教会の歴史ではなく、人類の歴史におけるキリスト教の動きに注目する。 キリスト教とアジア文化、特に日本の文化との接触の問題もとりあげる。	〔講義計画〕			
〔成績評価の方法〕 前期提出のブックレポート 2～3本 夏期休暇中に作成する小論文 後期授業における研究発表	〔参考文献〕 『聖フランシスコ・デ・ザビエル書翰抄』 上・下巻、 （岩波文庫 青 818-1・2）			
〔教科書〕 フィリップ・レクリヴァン『イエズス会』（「知の再発見」双書 53） 創元社 1996 年 遠藤周作『沈黙』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
聖書研究		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
〔講義概要・学習目標〕 キリスト教の根本經典である『聖書』、特に「旧約聖書」をできるだけ多く読むことがこの講義の目標である。もちろん、大学という場においては、理性的・学問的な研究成果を土台とすることになるので、「信仰」の有無などは全く関係なく受講できる。 いわゆる『聖書』には「旧約聖書」（39巻）と「新約聖書」（27巻）合計66巻のさまざまな時代のさまざまな文書が含まれている。それらは古代ユダヤ民族が残した人類全体にとって重要な知的遺産・世界の古典中の古典であり、今日においてもなお文学・美術・歴史・思想・宗教などに新鮮な光を投げかけている。教養としてぜひ『聖書』に親しんでもらいたい。	〔講義計画〕 前期に「創世記」「出エジプト記」、後期に「詩編」「ヨブ記」「イザヤ書」等を主として読み進める予定である。人数にもよるが、皆でテキストを読みあい感想を纏めてもらう。真面目な学生諸君のねばり強い努力に期待している。			
〔成績評価の方法〕 試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。	〔参考文献〕 AERA Mook 『旧約聖書がわかる。』（朝日新聞社）			
〔教科書〕 新共同訳『聖書』（日本聖書協会） （授業時には必ず毎時間持参すること。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本思想史		通 期	4 単位	三 宅 正 彦
〔講義概要・学習目標〕 日本人に大きな影響を与えた前近代の思想の歴史的展開を追う。原典の読解にもとづいて内容の理解を深める。	〔講義計画〕 1. 神道（『古事記』など） 2. 仏教（『浄土三部経』『八宗綱要』『諸宗仏像図彙』など） 3. キリスト教（『どろりな・キリシタン』など） 4. 儒教（『太極図』『太極図説』など） 5. 陰陽道（『大雑書』など）			
〔成績評価の方法〕 期末試験（講義に欠かさず出席して内容の理解に努めていれば単位取得は容易。欠席が多ければ困難）	〔参考文献〕			
〔教科書〕 資料を西に布する。ただし、西に布時に出席している人に1回限りで交付する。そのとき欠席した人に対する追加西に布や持参するのを忘れた人に対する再西に布は行わない。毎時資料と参照しなければ講義の理解は困難になる。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア思想史		通 期	4 単位	リン 林 コウサク 宏 作
【講義概要・学習目標】 四千年にも及び中国思想史を一年間20教回の講義では到底述べ尽すことはできない。本年度は春秋時代から秦の天下統一まで、主に諸子百家の思想を明らかにし、それぞれの代表的な思想家について述べてみたい。		【講義計画】 ① 中国思想史の意義ならびにその分期について ② 諸子百家の時代 ③ 孔子 ④ 孟子 ⑤ 荀子 ⑥ 老子 ⑦ 莊子 ⑧ 韓非子		
【成績評価の方法】 レポートの提出と試験の成績		【参考文献】 狩野直喜「中国哲学史」(岩波書店) 武内義雄「中国思想史」(岩波書店) 小島祐馬「中国思想史」(創文社) 森三樹三郎「中国思想史」(第三文明社)		
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋思想史		通 期	4 単位	山川 偉也
【講義概要・学習目標】 「哲学の根本問題＝時間」と題して、西欧思想史上の10人の哲学者たち、パルメニデス、ゼノン、プラトン、アリストテレス、アウグスティヌス、デカルト、カント、ベルクソン、ウイットゲンシュタイン、ハイデggerを取り上げる。		【講義計画】 前期はギリシアの哲学者たち、後期はそれ以後現代までにあてる。		
【成績評価の方法】 出席態度と前・後期試験の結果を総合的に判断して評価する。		【参考文献】 後期については適当な参考書の類がないので、必要な資料を用意することにする。		
【教科書】 山川偉也『古代ギリシアの思想』講談社学術文庫（パルメニデスからアリストテレスまで）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
科学思想史		通期	4 単位	松永 俊男
[講義概要・学習目標] 科学とキリスト教の関係について講義する。 17世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ところが、19世紀に科学と宗教の調和が崩れ、科学は宗教から分離していった。 講義では、ガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ科学と宗教が対立すると思われるのかについて考察する。		[講義計画] 前期 1. 宇宙観の変遷 2. コペルニクスの信仰と科学 3. ガリレオの信仰と科学 4. ニュートンの信仰と科学 5. イギリス自然神学の成立 後期 1. ビクトリア朝の信仰と科学 2. 化石の変遷の解釈と教会 3. 進化論とキリスト教 4. 科学と宗教の闘争史観の成立 5. 科学と宗教の闘争史観の否定		
[成績評価の方法] 原則として、毎回の授業の最後に小テストを実施する。これが一定の水準に達しなければ、出席率が良くても不合格とする。		[参考文献] 松永俊男（著）『ダーウィンの時代－科学と宗教』（名古屋大学出版会）		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教と英米文学		通 期	4 単位	谷 本 泰 三
【講義概要・学習目標】 神と悪魔、信仰と疑惑、希望と絶望、従順と反逆、このような対極の間でバランスをとろうとする人間を描いた英米文学作品を取り上げる。その狙いは、英米文学史の底流となっているキリスト教思想や反キリスト教思想を検証して、キリスト教への理解を深め、優れた文学作品が思想に命を与える様子を見ることにある。作品から喜びや、恐怖、そして感動を体験して欲しい。講義は常に聖書に言及しつつ原作品に密着して行う。指示された作品の原典を予習しておくことが必須となる。講義の詳細なアウトライン（学習ガイド付き）を用意しておくのでそれに従って予習するように。	【講義計画】 1 E.E. Cummings "Buffalo Bill's defunct" 死を超えるイエス 2-3 A. Marvell "To his Coy Mistress" 生への空しい欲望 4-6 N. Hawthorne "The Minister's Black Veil" 人は全て罪人？ 7-10 S.T. Coleridge <i>The Ancient Mariner</i> 罪と死からの解放 11 W. Wordsworth "We Are Seven" 永遠の命と無垢 12 J. Milton "On His Blindness" 絶望から希望への信仰 J. Milton "On the Late Massacre in Piedmont" 死と再生 13 G. Herbert "Love" 罪を赦すキリスト/聖餐式の意味 14-19 W. Faulkner "That Evening Sun" イエスの再臨 20-22 H. Melville <i>Moby-Dick</i> 不信の男とキリストになれなかった男 23 Christmas carols, English and American 信仰の喜び 24 まとめ			
【成績評価の方法】 前期 小論文 後期 期末試験 年間を通じて平素の努力点	【参考文献】			
【教科書】 聖書 谷本泰三（著）「学習ガイド・講義アウトライン」 なお、Hawthorne, Coleridge, Faulkner のテキストは英潮社、研究社出版、英宝社等からのものを、そのつど生協で入手できるよう手配する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本古典文学		通 期	4 単位	安 田 真 一
〔講義概要・学習目標〕 平安時代後期の物語の代表的作品をいくつか講読する。 古典文学の代表のように言われている『源氏物語』だけが古典ではない。その影響下に作られているとはいえ、それぞれに独自のおもしろさがあり、様々な問題点を抱えている。 具体的には、後に『源氏物語』と並び称されるほど当時読まれていた『狭衣物語』の他、『夜の寝覚』『とりかへばや』『浜松中納言物語』『堤中納言物語』を読んでいく。 『源氏物語』が成立するまでの物語史を、その内容を紹介しつつつづつと見通してから、上記の物語を読んでいきたい。 物語の想像力・創造力は、他のテキストとの関連から生まれるものである。そして、常にそれを読む現代の私たちと関わってくる。古典のおもしろさ、そして、テキストを〈読む〉技術を述べていきたいと思っている。	〔講義計画〕 前期は、まず『源氏物語』までの物語史を講義する。その後、『狭衣物語』『浜松中納言物語』を読んでいく。後期は、引き続き、『夜の寝覚』『とりかへばや』『堤中納言物語』を読んでいく。			
〔成績評価の方法〕 レポートによる。	〔参考文献〕 三谷 栄一編『体系物語文学史 第三巻』（有精堂） 『別冊国文学 王朝物語必携』（学燈社） その他多数。 講義時に指示する。			
〔教科書〕 大 槻 修編『平安後期物語選』（和泉書院）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代文学		通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
〔講義概要・学習目標〕 日本近代文学を概観する。近世文学から近代文学への重要な過渡期であった、明治文学を中心にし、大正・昭和・平成へと、現代につながる文学の流れを追っていく。微妙な人間心理をより細やかに描き出そうとした文学者達の苦悩と挫折の上に、現代の文学が築き上げられたことを再認識してもらう。彼らの試行錯誤の跡を辿りながら、文学の発展と同時に、その背後の社会についても考える。	〔講義計画〕 講義形式で、資料をもとに、解説を加えていく。意見を求めたり、積極的に参加してほしい。			
〔成績評価の方法〕 毎日、最初と十分間、前日の講義の理解度をチェックするレポートを書かせ、平常点とする。出席重視。期末試験は授業中の態度を計算。	〔参考文献〕 必要に応じて紹介する。			
〔教科書〕 資料をコピーして配付する。				

科	目	名	クラス	講義区分	単位数	担	当	者
西洋文学				通 期	4 単位	本 多 雄一郎		
【講義概要・学習目標】 現代の文学理論においては、読者こそが作品の意味を産み出すのだという考えから、文学作品と読者との関係が重要視されつつあるが、まさにその読者という立場にある皆さんが、西洋文学を読む上で必要とされる基礎的事項を習得していくことを目標とする。 そして西洋文学を代表する個別の作品にも触れつつ、それらが提示する問題や思想について論じていく予定である。			【講義計画】 前・後期を通して、西洋文学の思潮の変遷、ジャンル、社会的背景や問題点などについて概説するとともに、実作品を検討していく。					
【成績評価の方法】 授業への参加度とレポートで評価する。			【参考文献】 適時指示する。					
【教科書】 大塚幸男著『ヨーロッパ文学主潮史』白水社								

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文化論		通 期	4 単位	村 上 昌 孝
〔講義概要・学習目標〕 ある文化圏で生み出された文物が他の文化圏に伝えられる場合、それぞれの文化にふさわしいものに作り替えられるのが常である。異文化の受容と変形の問題を考える材料として、インド説話を取り上げる。インド説話は、仏教説話の漢訳を通じて日本に伝えられた。その一方、インドで制作された物語集がイスラム圏で翻訳され、ヨーロッパに伝えられることにより、これらの地域の説話・伝承に大きな影響を与えている。この講義では、インド説話が東西に伝播する際、どのような改変がなされたのかを学習することを目標とする。	〔講義計画〕 インド説話に関する概説の後、まず、東方への伝播の具体例を検討していく。インド説話が仏教を説き明かすための例え話として取り入れられた際にも、仏教の教理に即した改変が施されているのはもちろんのことだが、これが中国・日本へと伝承されていく過程で、それぞれの文化に適合するように、更なる改変が施された。同系統の説話の、インド・中国・日本での伝承の違いを比較する。ついで、西方への伝播に関しても同様の検討を行うこととする。			
〔成績評価の方法〕 平常点とレポートによる。	〔参考文献〕 岩本裕『仏教説話の源流と展開』，東京，1978.			
〔教科書〕 講義の際に資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民俗学		通 期	4 単位	橋 内 武
〔講義概要・学習目標〕 民俗学は庶民が生活の中で伝承してきた文化を観察・記録する中から成立した学問である。その対象範囲は生活文化万般にわたるが、本講では、前期に人生儀礼・年中行事・俗信、後期に口承文芸（特に昔話）を取り上げる。これらの文化事象を扱いながら、民俗の見方を手に入れることができれば学習の目標が達成されたことになる。	〔講義計画〕 <前期> 第1週～第2週 民俗学とは何か 第3週～第6週 人生儀礼（産育・婚姻・葬送） 第7週～第9週 年中行事（正月と盆を中心に） 第9週～第13週 俗信 <後期> 第1週～第2週 口承文芸（神話・伝説・昔話・世間話など） 第3週～第5週 昔話の分類（むかし語り、動物昔話、笑話、形式話） 第6週～第12週 昔話研究の方法（起源・歴史・構造・機能） 第13週 まとめ			
〔成績評価の方法〕 試験による。	〔参考文献〕 赤田光雄ほか編 『講座 日本の民俗学』 雄山閣。			
〔教科書〕 稲田浩二編 『日本の昔話』（上・下） 筑摩書房。（後期に用いる。）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学概論		通 期	4 単位	和 栗 了
〔講義概要・学習目標〕 文学とは何かという問題に解答を出すために、文学作品をいかに読むべきかを、具体的に講義する。作者が自ら信ずる真理を読者に伝えるために最も効果的な表現手段を選択したとすれば、読者はその表現を読む技術が必要とする。作者が選択した最良の表現を、詳細に、正確に、そして想像力豊かに読む方法を受講生に伝える。 次に、文学作品を読む技術を身に付けた読者に要求されるものは、読者自身である。読者としての我々はどのような人間なのかを見たい。これが最終目標である。	〔講義計画〕 第1回目の授業で指示する。			
〔成績評価の方法〕 年2回のレポートによる。 出席も重視する。	〔参考文献〕 第1回目の授業で指示する。			
〔教科書〕 第1回目の授業で指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
比較文学		通 期	4 単位	赤 瀬 雅 子
〔講義概要・学習目標〕 近年、わが国では比較文学研究がますます盛んになってきた。比較文学は今世紀のはじめ、フランスにおいて始まった学問である。そして1960年代にひとつの頂点に達したものである。 この学問は文学研究の一方法であり、その意味では、例えばフランス文学研究等と同質のものであった。加えて同時代の外国文学の深い影響を考察するものであることが、厳守され、それに反する研究は比較文学とは見なされなかった。また古典の比較文学的研究も歓迎されなかった。 このような多くの制約から自由になろうとして起こったのがアメリカを中心とした対比的研究方法である。この方法から派生した比較文学と平行して比較文化を考察しようとする方法は意外な成果を生み、わが国においても比較文学・比較文化の研究が主流となってきた。 基本のアカデミックな比較文学の方法を紹介しながら、新しい対比研究の方法をも具体的に考察する。	〔講義計画〕 現在、わが国の多くの大学で比較文学の講義を担当している多くの研究者が大学生のために書き下ろした数編ないし十数編の論文に触れながら、比較文学・比較文化を学ぶ楽しさを引き出して行く。コスモポリタンなものの考え方をすることの大切さを常に意識したい。			
〔成績評価の方法〕 前期末に提出するレポートと、学年末の試験とのふたつが重要であるので、どちらも欠かないようにしていただきたい。出席率を良くすることも大切である。成績評価はそれらの総合によってなされるものである。	〔参考文献〕 富田仁・赤瀬雅子著『明治のフランス文学』（駿河台出版社）			
〔教科書〕 松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
キリスト教特講 (マルコ福音書の研究)		通 期	4 単位	滝 澤 武 人
〔講義概要・学習目標〕 「新約聖書」には27巻のさまざまな文書が含まれており、それらはいずれも人類全体の大いなる知的遺産であり、今日においてもなお文学・歴史・思想・宗教・芸術などに対して新鮮な光を投げかけている。そのような「新約聖書」の中の「マルコ福音書」を読むことが今年度の講義の目標である。 「マルコ福音書」はいわば一つの「文学」（ノンフィクション、ドキュメンタリー、評伝）であり、その著者は「作家」「編集者」なのである。したがって、そこにはきわめて独自の思想と断固たる主張とが存在している。それを明らかにするためには、いわゆる「編集集的研究」という方法を土台としなければならない。真面目な学生諸君の主体的な受講を期待している。	〔講義計画〕 マルコ福音書を段落ごとに読みすすめていく。また、次のようないくつかのテーマ別に論ずる。 1 イエスに従う 2 弟子批判 3 民衆 4 ユダヤ教批判 5 人間主義・世界主義 6 神の国 7 福音 8 終末 9 十字架刑 10 復活			
〔成績評価の方法〕 試験・レポート・出席・受講姿勢などを総合的に評価する。	〔参考文献〕 滝澤武人『福音書作家マルコの思想』（新教出版社） 〃 『人間イエス』（講談社現代新書） 田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）			
〔教科書〕 新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会） （授業時には必ず毎時間持参すること。）				

科	目	名	クラス	講義区分	単位数	担	当	者
哲学特講 (論理的思考－哲学の基礎－)				通 期	4 単位	山川 偉也		
[講義概要・学習目標] この講義は、哲学的諸問題を考えていく際に必要不可欠となる論理的思考の涵養を主眼として行われる。			[講義計画] 前期は西洋哲学の流れを概観しながら、論理的思考の世界に入っていく。 後期は哲学固有の問題と論理学固有の問題の接点に焦点を絞り、現代哲学の諸問題を論ずる。					
[成績評価の方法] 年間の授業を通じて、小テストを繰り返す。評価は、それら小テストの結果と前期末試験ならびに学年末試験の成績を総合して行うこととする。			[参考文献]					
[教科書] 山川偉也・清水真一『論理開眼』世界思想社								

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文学特講（日本近代文学の作家達）		通 期	4 単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標]		[講義計画]		
我々にとって文学とは何かを考える。明治・大正・昭和・平成の短編小説を味わいながら、自分を知り、相手を知り、社会へ出るための訓練の場として行う。		担当範囲を割り当て発表させ、質疑応答と討論の授業を進める。発表者以外にも意見を求める。積極的に参加してほしい。		
[成績評価の方法]		[参考文献]		
毎日、最初5分間2人5分ずつ講義に備える。そのレポートを書かせ、平常点とする。出席重視。期末試験は授業中の発表、態度を加算する。		必要に応じて紹介する。		
[教科書]				
作品をコピーして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西 洋 社 会 史		通 期	4 単位	種 田 明
〔講義概要・学習目標〕 本講義は社会科学の、なかでも社会史を中心に、阿部謹也氏の歴史研究を解説し、現代世界に生きる私たちが抱える諸問題を読み解くための基本認識、あるいはそのためのヒントを探ることを目的としている。 社会科学とは、政治学・経済学・社会学などを基軸として、現実の社会・世界を解剖し分析する学問の総称である。日本においても、また世界においても1970年代からさまざまな「社会史」が巷間に溢れ出てきている。社会科学の中の社会史は、総合的な視点から人間と人間集団（地域、民俗、社会…）を「全体」として捉えていくべきものである。狭義としての、人間活動の特定領域を対象とする部分史ではなく、「社会（全体）史」として広義に考えてゆきたい。 阿部社会史の方法は、人と人／人とモノとの「関係」（絆・交換・贈与…）をドイツ中世からさぐり、日本との比較を試みるものである。読み解くなかから「生きる」「生活する」ことの意味を考え、学問の厳しさと楽しさを味わってほしい。知的好奇心旺盛な、積極的に質問・疑問を投げかけてくれる受講生の参加を期待している。		〔講義計画〕 3分の2 ドイツ中世社会史の諸問題を通して、現代につながり現代と交差するものはなにかを考え講義解説していく。 U・エーコ「薔薇の名前」のVTRをみて、修道院について概観する。 3分の1 ドイツ中世都市フランクフルトについての研究（都市史）の概要について解説講義する。		
〔成績評価の方法〕 出席・平常（小テスト） 10＋20％ 欠席5回は受験資格なし 試験（講義最終日） 70％		〔参考文献〕 講義中に提示する。		
〔教科書〕 阿部謹也『社会史とは何か』筑摩書房、1989年 小倉欣一・大澤武男『都市フランクフルトの歴史』中公新書、1994年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本社会史		通 期	4 単位	生 瀬 克 己
〔講義概要・学習目標〕 私たちの祖先を具体的にたどりうるのは、江戸時代の初期か戦国時代までがせいぜいである。けれども、江戸期における幕藩社会の成立は、わが国の歴史を考えるうえで、決定的に重要である。第一には、夫婦とその子どもという現代の家族とほぼ変わらない形態で暮らしはじめるものこの時代であるし、穀物の増産や防災のための治山治水（国土開発）がなされるものこの時代である。 このようにして、人びとの「豊かさ」をめざした努力のうえにたって「近代社会」を迎えることになる。欧米列強からの圧力のなかでの「近代社会」をめざしての努力は、そこで暮らす民衆にとっては、どのようなものであったのか。結果としては、いわゆる「戦争の時代」へとつながってしまうのであるが、そのような時代における庶民生活に特徴的なところを考えていくことにしたい。		〔講義計画〕 1) 国土利用の時代と庶民生活 2) 近代社会の成立とその特質 3) 工業化の過程と民衆 4) 戦争の時代と傷痍軍人 5) まとめ		
〔成績評価の方法〕 学期末に実施する「論述式筆記試験（60％）」と、講義期間中に教回を実施する予定の「レポート（40％）」の合計点で評価する。		〔参考文献〕 必要に応じて指定します。		
〔教科書〕 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
東 洋 史	0 1 0 2	通 期 通 期	4 単位 4 単位	松 浦 典 弘
【講義概要・学習目標】 7世紀から10世紀を中心に前後の時代も取り上げながら、中国の歴史を述べていきます。同時に周辺諸民族との関係も取り上げていきたいと思っています。 講義の中心となる中国王朝は唐（618～907）です。唐は我々日本人にとっては最もよく名の知られている王朝で、中国王朝の典型的な姿と考えられる場合もあるようですが、実際は北方の遊牧民族に出自が求められ、漢民族的色彩のうすい王朝でした。また、8世紀の半ばを境にその性格は変質し、後半は内陸アジアに建国された回鶻（ウイグル）や吐蕃（チベット）に圧倒されがちで、世界帝国のイメージとはかけ離れたものでした。このような唐朝の歴史を、それに先立つ南北朝時代や、それに続く遼・北宋時代などを視野に入れながら講義を進めていきます。同時期の日本との関係にも言及する予定です。		【講義計画】 魏晉南北朝時代史の概観 隋唐時代の政治（何人かの人物・いくつかの事件に焦点を当て述べる予定） 唐代の都市と文化 唐と内陸アジア 唐と東アジア 唐代の日中交渉 唐の滅亡と五代十国 北宋と遼 宋代の日中交渉 単なる通史ではなく、以上のようなトピックから問題点を取り上げ述べていく予定です。		
【成績評価の方法】 期末試験		【参考文献】 授業中に適宜紹介します。		
【教科書】 藤善真澄責任編集『アジアの歴史と文化』2（同朋舎）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋近代史		通 期	4 単位	山 田 義 顕
【講義概要・学習目標】 近代ヨーロッパの成立と発展について、いくつかの角度から考察する。そのなかで、近代とは何か、近代とはどのような時代だったのか、を考えてもらいたい。講義ではできるだけ資料を配布することによって、視覚的に理解してもらうことも考えている。	【講義計画】 近代ヨーロッパの諸問題 主なテーマ： ①序説：ヨーロッパの時代区分と歴史地理。 ②近代の成立：ペストと魔女 ③近代の文化史：スポーツ、カリカチュアなど。 ④ルネサンスと宗教改革：論争史などを中心に考察する。 ⑤大航海の時代：新大陸の発見、香料貿易、奴隷貿易など。 ⑦市民革命：イギリス・フランス・アメリカ。 ⑧産業革命：歴史的意味とその功罪。			
【成績評価の方法】 出席および学期末試験によって評価する。	【参考文献】 講義中にそのつど紹介する。			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
アジア文化史		通期	4単位	原山 煌
〔講義概要・学習目標〕 中国世界は、はるか古代から、アジアにおける巨大な文化の発光体のひとつでありつづけてきた。それは中国である。しかし、中国はやがてほかにも注目し値する文化が存在していることを知ることになる。他の文化圏から新鮮な文化が流入し、中国の文化も他の世界に大きな影響を与えることになるのは、いわば当然の流れである。 こうした交流を歴史的にふりかえり、異文化の接触によって何がもたらされたのか、どのような歴史的展開があったのか、そうしたことも考えてみたい。経済的交流はどのようになされてきたのか、文化的交流においてはどうか、考えるべき事は多い。 ここで考える諸種の交流に、遊牧民が大きく関わっていたのは注目すべき事実である。機動性を身上とする騎馬遊牧民なくして東西交流、あるいはアジア内部の南北交流はありえなかったといえよう。そうした貢献についても言及しておくことが必要である。				
〔講義計画〕 1. この授業の目的と講義の進め方の説明 2. 中国世界の世界観 3. 中国が最初に見た手強い異族 4. 中国の対外知識の拡大 5. 東西交流のありかたを歴史的にあとづける 6. 達成されたこと				
〔成績評価の方法〕 授業への理解度を確認するための小テスト、年数回のレポート（参考文献を3冊以上参照したオリジナルな論考に限る。既存文献の丸写しは除籍）と、各期末の定期試験の成績によって総合的に評価する。				
〔参考文献〕 授業中に随時紹介する。				
〔教科書〕 間野英二『中央アジアの歴史』新書東洋史8 講談社現代新書 講談社 1977				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋文化史		通 期	4単位	岩津 洋二
〔講義概要・学習目標〕 「西洋」と称される地域には多くの民族が存在し、それぞれ独自の文化的な伝統をもっている。その点では、世界の他の地域の場合と同様である。しかし、今日の世界において「西洋」は単なる一地域の名称にとどまるものではなく、先進の近代社会の代名詞でもある。多くの国々にとって近代化とは西洋化のことにほかならない。明治以降の日本と日本人にとっても、西洋と西洋人は模倣すべきモデルであった。 今年度の講義では、「西洋」を全体としてとらえる視点を重視しながら、前期は「西洋文化」の特質について、一般の日本人にはなじみの薄いであろう側面に焦点を当てながら概説する。後期は、世界史の中での「西洋」の位置について検討するとともに、EUの統合が進展する現代のヨーロッパの直面する諸課題についてもとりあげる。 近代の日本人の西洋への無批判的な憧憬を解体し、西洋を冷静に見直すきっかけとなる講義にしたいと考えている。				
〔講義計画〕 1. 西洋文化史の課題と射程 2. 西洋文化の伝統と近代 3. 西洋の統一性と多様性 4. 西洋の自己規定 （第1回目の講義で、より詳細な講義計画を示す）				
〔成績評価の方法〕 何回かのレポートと学年末の試験による。				
〔参考文献〕 授業中に指示する。				
〔教科書〕				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	01	通 期	4 単位	野尻 亘
[講義概要・学習目標] 地理学は「地域」・「空間」および人間の「空間的行動」や「環境知覚」などを研究対象としている。地理学も当然のことながら固有の理論や法則を持っている。本講では人文地理学の理論や方法論の基礎について、学説史の流れに沿いながら展望することとしたい。 地理学の論文を読む時、地理学の研究を行う時に必要な思想の体系についてわかりやすく解説する。 従って、中学・高校で学習する「地理」の授業の内容とは異なる話となることを予め承知していただきたい。 社会学・経済学・経営学を専攻する学生にとっての専門課程での教育内容と関連した授業を提供することを心がけたい。	[講義計画] 〈前期〉1.探検記・産物誌から近代地理学へ 地理と地誌の違い 2.生態学的視点と地域システム フンボルト・リッター ラッツェル・ブラーシュ 3.コロロギーから「地域分化」の研究へ リヒトフォーフェン・マルテ・ハーツホーン 4.地理学における例外主義批判と計量革命 5.「地域」と「空間」の違い 流動を分析する視点グラヴィティモデル 6.行動地理学とタイムジオグラフィ 〈後期〉7.人文主義地理学 場所や景観の意味づけについて 8.マルクス構造主義と都市研究 9.立地論 ウェーバー 輸送費・労働費・集積の利益 10.立地論 レッシュ 市場の均衡と立地条件 11.クリスタラーの中心地研究 12.現代における地理学の課題			
[成績評価の方法] レポートにするか試験にするかは授業の進捗と履修状況をみて決定する。	[参考文献] 西川 治 『人文地理学入門』東大出版会			
[教科書] 使用しない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人文地理学	02	通 期	4 単位	藤 森 勉
[講義概要・学習目標] 本講義では、人間の社会生活・社会活動が「地域」とどう関わってきたか、どんな問題があるかを事例研究の成果をもとに具体的に解説する。 その場合、地域の大きさや社会集団の大きさによって、それぞれ異なった関係が見られるので、前期は大スケールの場合を後期は小スケールの場合を取り上げる。	[講義計画] 〔前期〕大スケールの地域としてオーストラリアを対象とし、次の課題を解説する。 (1) 先住民アボリジニーの生活と社会。 (2) イギリス植民地政策とアボリジニーの社会生活。 (3) 連邦成立と中国人・日本人移民。 (4) 日豪経済関係。 〔後期〕小スケールの地域として日本国内の諸地域について地域社会問題を解説する。 まず、人口分布・人口構成を解説した上で、 (1) 平野の農村 (2) 島の漁村 (3) 過疎山村 (4) 地方小都市 (5) 巨大都市を対象として地域の実態と問題点を解説する。			
[成績評価の方法] 定期試験による。	[参考文献] 必要に応じ紹介する。また、地図・資料等のプリントを配付する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論	0 1	通 期	4 単位	巖 圭 介
〔講義概要・学習目標〕 環境問題に関するニュースがマスメディアに流れない日はない。ダイオキシン、環境ホルモンといった、人体に悪影響があるとされる人工化学物質の検出、シックハウス症候群やアレルギー、家庭ゴミや産業廃棄物の処理機能の限界、リサイクル、省エネルギー、環境に優しい製品、水や大気の汚染、オゾンホール、地球温暖化。あふれかえる情報はかえって市民の感覚をマヒさせ、センセーショナリズムと虚無、そして不安に乗じた似非（えせ）科学をはびこらせる。 今必要とされるのは、上滑りなマスコミの情報に惑わされないための正しい基礎知識と、いたずらに不安を増幅させられないための基本的なものの考え方である。この授業では現在の主要な環境問題についての基礎的な理解を深め、環境意識を高めてもらいつつ、環境に関する情報の洪水の中を泳ぎ抜く力をつけてもらうことを目的とする。	〔講義計画〕 おおむね次のようなテーマに沿って進行する。 ・破壊される地球システム 酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化 ・あふれるゴミ ・汚される地球 DDT・PCB、ダイオキシン、環境ホルモン ・水質汚染 ・失われる熱帯雨林 ・砂漠化する大地 ・人口爆発			
〔成績評価の方法〕 前期末と後期末 2 回の論述式試験、夏休み、冬休みのレポートに加え、授業中に数回提出してもらう感想文により判定する。	〔参考文献〕 適宜授業中に示す			
〔教科書〕 とくになし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境問題概論	0 2	通 期	4 単位	鈴 木 善 次
〔講義概要・学習目標〕 今日、私たちが取り巻く環境は人類の歴史において以来のきびしい状況にある。地球温暖化、オゾン層破壊、ダイオキシン汚染、環境ホルモン問題など多くの問題が顕現化しているからである。 本講義では、こうした環境問題の現状と、その背景を検討し、これからの人類生存のあり方を学生諸君と考えてみたい。 受講学生には、自分たちのライフスタイルを問い直す力を身につけてほしいと考えている。	〔講義計画〕 1. 環境とは何か、環境主体とは何か、生物としてのヒト。 2. 環境問題とは何か。 3. 環境問題といわれるものの具体例 (1) 地域的問題 (2) 地球規模の問題 4. 望ましい文明とは？ 科学文明の功罪。 以上の項目について、ビデオ教材などを用いながら、学生諸君からのレポート提出とともに検討する。			
〔成績評価の方法〕 前期には夏休みのレポート提出、後期には期末テスト、ときどき感想文提出を課し、これらを総合して評価。	〔参考文献〕 鈴木善次『人間環境教育論』（創元社）1994年。			
〔教科書〕 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
自然環境論		通 期	4 単位	井 田 和 子
【講義概要・学習目標】 自然秩序や自然システムの複雑な因果関係を軽視した大規模な資源開発や土木・建設事業などが、大災害の原因や誘因になることが多くなった。地域的自然システムの地球科学的認識、人間を含む全生態系の研究、地域環境額としての地理学の考察と応用が不可欠なのである。ここでは、日本列島の風土的特色を総合的に把握できるように留意した。	【講義計画】 [前 期] 日本の歴史的風土、日本人の自然観、日本の地質・地形、地形環境と開発史、日本の気候の特色と生活、水文環境、日本の森林と文化、自然環境の利用と保全 [後 期] 大気汚染・水汚染の舞台、土・植生と環境、人口・都市と環境、産業と環境、エネルギーと環境、交通と環境、開発と保全、公害地誌(各国の公害)。			
【成績評価の方法】 期間中に数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	【参考文献】 放送大学教材、那須・西川著、『日本の自然』 古今書院、福岡義孝著、『図説環境地理—地球環境時代の地理学—』			
【教科書】 毎回プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境と法		9・12月集中	4 単位	土 屋 正 春
【講義概要・学習目標】 16000億円。これは日本における汚水浄化・排煙脱硫など各種環境保全関連設備の年間出荷額だ。これだけ国民が負担していても、「環境問題」は深刻になりこそすれ、改善の傾向にはない。1日25万人のペースで増える世界人口が、先進諸国の「文化的生活」を目指して「発展」している以上、最高のクリスマスプレゼントはエベレスト近辺の空気という日が訪れるのも近い。が、そのカトマンスでさえ、混雑した道路は排ガスとごみの腐臭にあふれている。 成長と発展と偲じて来た道にブレーキをかけねばならない。では、法には何が出来て何が出来ないのか。人々の「文化的生活」志向を法はコントロール出来るのか。環境問題のあり方と対応とを、法を視座の中心としつつ考えることとする。	【講義計画】 ・1日の授業で1つのテーマを扱うことを原則とします。 ・ペースとなるテーマ表は第2回目の授業時にお知らせします。 ・受講生の積極的な参加型式をとります。			
【成績評価の方法】 レポートを数回課します。 (フロッピーディスクで提出していただきます。)	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
環境と経済		9・12月集中	4 単位	仁 連 孝 昭
【講義概要・学習目標】 河川・湖沼の汚染、廃棄物問題、発展途上地域の開発と環境など、具体的な事例をとりあげながら、環境問題と経済がどのようにかかわっているのか概観する。その上で、持続可能な人間と環境との関係はどのようなものであるべきかを概説する。最後に、それらをふまえて、環境税、ライフサイクル・アセスメント、環境の経済的評価など、経済と環境の調和のための制度的工夫について述べる。	【講義計画】 1. 河川・湖沼の環境汚染とその対策 2. 廃棄物と豊かな社会 3. 発展途上地域の開発と環境 4. 人間行動と環境 5. 農業と環境 6. 工業と環境 7. 持続可能な社会とは 8. 経済的手段（環境税）はどこまで有効か 9. 環境の経済的評価 10. 環境と経済は両立するか			
【成績評価の方法】 試験と授業中に適宜課すレポートによって評価する。	【参考文献】 シューマッハー(小島慶三他訳)『スモール イズ ビューティフル』講談社学術文庫 グレーデル、アレンビー『産業エコロジー』トッパンエキンズ『生命系の経済学』お茶の水書房 本山美彦『豊かな国、貧しい国』岩波書店 室田武、多辺田政弘、槌田敦『循環の経済学』学陽書房			
【教科書】 教科書は定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
部落問題論		通 期	4 単位	黒 田 伊 彦
【講義概要・学習目標】 部落解放運動の展開によって劣悪な生活実態は改善されつつある。だが未だに部落への差別の根柢は解消されていない。解放教育や社会啓発が広く行われてきたが、差別事象は跡を絶たない。 「なぜか？」部落への差別の基礎にある穢れ意識と天皇制の関係。それとの闘いを通じて部落解放の主体形成を跡づけ、部落解放理論の論争点を検討して、部落解放のあり方を考察する。 映像資料を多く用いる、その時は簡単な感想文を課す。 夏期休暇中に大阪人権博物館、奈良の水平社博物館、堺の軸松歴史資料館、岡山の洪染一揆資料館、福山市人権平和資料館、三重人権センター、福岡県人権啓発センター等々各地の人権博物館の見学学習とその報告レポートを課す。 これらの学習を通じて、部落問題を日本の歴史と文化の中に位置づけ、日本の歴史や文化の構造を逆照射する視点の確立を期したい。 更に部落低位性論、部落悲慘史論を克服し「人間は尊敬すべき存在である」という全国水平社宣言の思想の体得に努めたい。	【講義計画】 I 部落差別と天皇制 1. 穢れと世間体、戸籍制度と天皇制 2. 西光万吉と皇座主義 3. 神武天皇陵拡張と洞部落の強制移転 4. 別府のヶ浜部落焼打事件と解放歌 5. 福岡運隊爆破陰謀事件の真相と松本治一郎の闘い 6. 全国水平社と侵略戦争―世界の水平運動 7. 旧「満州」移民と来民開拓団の集団自決の悲劇 8. 現代の天皇制と部落差別―聖と賤の対立意識 II 狭山事件と部落問題 1. 狭山事件の内容・性格と部落解放運動 2. 狭山事件の模擬陪審裁判 III 同和行政の歩みと街づくり 1. オールロマンス事件と同和行政の全国化と変容 2. 阪神・淡路大震災と被差別部落・自立と共生の街づくり IV 部落問題の論争について 1. 部落の近世政治起源説批判をめぐって 2. 部落民からの解放か部落民としての解放か ―部落の共同幻想と部落民としてのアイデンティティー―			
【成績評価の方法】 前・後期のテストとレポート及び出席点で総合的に評価する。大阪人権博物館等、各地の人権博物館の見学学習レポートを課す。出席を重んじる。	【参考文献】 黒田 伊彦（著）『部落問題学習 16 講』（柘植書房新社） 八木 晃介（著）『部落差別論』（批評社） 藤田 敏一・師岡 佑行（編）『部落史を読む』（阿吽社） キムチョンミ（著）『水平運動史研究―民族差別批判―』（現代企画室） （金 静美）			
【教科書】 黒田 伊彦（著）『部落史紀行』（柘植書房新社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
民族問題論		通 期	4 単位	小 柳 伸 顕
【講義概要・学習目標】 1997年、アイヌ文化振興法が成立し、北海道旧土人保護法が廃止されました。日本政府は約100年にわたりアイヌ民族を「旧土人」とよび、民族とは認めませんでした。日本で民族問題を語るとき、アイヌ民族抜きにはできません。また、琉球処分、あるいは日韓併合に伴う朝鮮人(韓国・朝鮮人)問題にも注目する必要があります。そこには、日本社会の民族差別の根があります。共生社会が言われる今日、アイヌ民族、琉球(沖縄)、在日朝鮮人に目を向けると共に、それと不可分の外国人労働者にも注目し、共生社会のあり方 を考えたいと思います。	【講義計画】 ・前期 日本政府は、明治以来、アイヌ民族にどう対処してきたかを「北海道旧土人保護法」の成立過程を検討する中で明らかにする。また、琉球処分以来続く沖縄への差別から民族問題を考える。 ・後期 民族問題は、植民地政策と切り離して考えることはできない。台湾の植民地化(1945)、朝鮮の日韓併合(1910)を検討するなかで、今日の外国人労働者問題を考えてみる。			
【成績評価の方法】 期末試験。(ただし、前期末小レポートあり)。	【参考文献】 ・山川カ『明治期アイヌ民族政策論』 未来社 ・新川明『異族と天皇の国家』 二月社 ・アウイハツパハ速『証言霧社事件』 草履館 ・田中宏『在日外国人』 岩波書店			
【教科書】 なし。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
障害者問題論		通 期	4 単位	生 瀬 克 己
【講義概要・学習目標】 江戸後期から、できるだけ現代に近いところまで、いくつかの文学作品を取り上げて、それらの作品に登場してくる障害者たちを素材として、それぞれの時代における障害者像を明らかにしていきたい。 同時に、それらの作業を通じて、それぞれの時代における人びとの暮らしと障害者のかかわりを考えていくことにしたい。言葉をかえていうと、障害者の登場する文学を通じて、江戸後期から明治・大正・戦前昭和といった時代の庶民生活史を論じていくことになる。	【講義計画】 障害の有り様を肢体不自由、知的障害、精神障害というように一応の分類をしたうえでそれぞれの障害者の時代ごとのあり方の違いを把握していくことになる。 できるだけ、それぞれの障害の違いがどのように作品化されているかを考えていくことになる。なお、いくつかの作品については、受講生にも読破してもらおうと考えている。			
【成績評価の方法】 学期末に実施する「論述式筆記試験(60%)」と、講義期間中に数回は実施する予定の「レポート(40%)」の合計点で評価する。	【参考文献】 必要に応じて指定します。			
【教科書】 特には指定しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
歴史・社会特講 (都市社会の歴史的研究)		通 期	4 単位	佐賀 朝
〔講義概要・学習目標〕 近年、日本史の分野では都市を対象とした研究が進展し、都市社会の多様な実態が明らかになってきている。本講義では、こうした研究のうち、都市社会関係史的な潮流の方法・成果に学びながら、近代都市大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。特に、都市住民諸階層の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係の具体的な把握に重点を置き、史料の多面的な分析を通じて都市社会の構造に迫りたい。 具体的には大正～昭和戦前期の大阪における都市「下層社会」の問題、借家争議に代表される住宅問題、米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開、さまざまな社会的紛争と「俠客」（きょうかく）の役割など、都市の民衆世界に関わるテーマを取り上げていく。 本講義では史料の講読や具体的な分析作業を重視するので、そうした作業に意欲のある受講生の参加を期待する。なお、春と秋の2回、大阪のまちを歩くフィールド・ワークを実施する予定。	〔講義計画〕 おおむね以下のようなテーマを論じる予定。 （前期） 米騒動の勃発と地域支配の再編成 方面委員制度の発足・展開とその歴史的意義 日本橋「裏長屋」の生活と地域の社会構造 不良住宅地区改良事業と地域住民 （後期） 大正～昭和期の「俠客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配			
〔成績評価の方法〕 出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。	〔参考文献〕 原田敏一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 以上のほか、授業のなかで随時、提示する。			
〔教科書〕 随時、プリント等を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人権・環境問題特講（文明と水辺）		通 期	4 単位	井 田 和 子
〔講義概要・学習目標〕 日本人の自然に対する豊かな感性は、水辺などの美しい景観を通して育まれたとも言える。しかし、農業国から工業立国への転換の過程で、水辺の様相を一変させてしまった。環境資源としての水辺を考える。	〔講義計画〕 1. 自然界の水 2. 河川水をその働き 3. 河川と人間—人間の歴史は川のほとりから— 4. 地球環境問題と河川 5. 地下水と水道水 6. 日本の河川 7. 治水・利水の技術の変遷 —「都市に降る雨水を水資源としてためる」に至るまで— 8. ダムの歴史と現状 9. 化学物質の拡散と水圏の汚染 10. 人類は子孫を残せるか			
〔成績評価の方法〕 期間中に数回のレポートを書いてもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。	〔参考文献〕 古今書院、畠中武文著、『河川と人間』 築地書館、美浦義明著、『化学汚染と人間の歴史』			
〔教科書〕 毎回プリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ギリシア語		通 期	4 単位	山川 偉也
〔講義概要・学習目標〕 西欧文化の根源はギリシアにある。西欧文化をある程度以上に理解しようと思うなら、ギリシア文化を深く知らなければならない。そして、ギリシア文化を確実に知るには、その言語を学ぶのがいちばんである。 この授業は、ギリシア語の学習をしながらギリシアの文化を学びたい人のために開講される。語学一辺倒ではない。たまにはビデオを見たり、古典の作品を解題したりしながら、楽しい授業にしたいと思っている。	〔講義計画〕 講義概要・学習目標の項を参照			
〔成績評価の方法〕 毎回授業への参加態度と試験の結果を見て、総合的に評価する。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門』岩波書店				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ラテン語		通 期	4 単位	ゴンザレス ダ リ オ GonzalesDario
〔講義概要・学習目標〕 〔学習目標〕 ラテン語の基礎的な知識の習得を目指す。 〔講義概要〕 ヨーロッパの共通語的存在であったラテン語は、二千年余りの歳月により今やフランス語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語、等に変身しているが、西洋文明や文化の歴史の謎を解くための鍵になる言語である。又、英語の辞書を開けば、多くの語彙が、ラテン語から影響していることを知り、母なる言語の由縁が自然に理解できる 講義は、ラテン語の基礎的な文法の理解と、現代ヨーロッパの諸言語の共通点を知ることによりラテン語の歴史の概要についても触れる。又、ラテン語にできるだけ親しんでもらう為に、視聴覚教材を活用するつもりである。 授業には、ラテン語の小辞典を携帯する。	〔講義計画〕 〈前期〉1. ラテン語の起源と歴史 2. 発音と読み方 3. 基礎的な文法事項 〈後期〉1. ラテン語からの派生語 スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語 等 2. 身近かなラテン語 音楽と雑誌 3. 簡単な日常会話			
〔成績評価の方法〕 小テスト、出席日数、レポートの総合評価	〔参考文献〕 松本悦治（著）「ラテン語入門」（駿河台出版社）			
〔教科書〕 プリント				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
インドネシア語		通 期	4 単位	北 野 正 徳
【講義概要・学習目標】 この講義では、基本的なインドネシア語を学ぶことを目標としている。インドネシア語それ自体についての紹介から始まり、単語の表記と発音、基本的な語法と文法などへ進んでゆきたい。これらの項目を練習することを通じて、簡単な会話と作文ができるようになることが、この講義の最終的な目的である。また、授業では、インドネシア語が実際にどのように使われ・理解されているかをより良く知るために、インドネシアの社会や文化についてもコメントを加えてゆきたい。	【講義計画】 1 インドネシア語の紹介 2 表記と発音 3 基本的な語法・文法 4 発音・会話・作文の練習 5 インドネシア語での簡単なコミュニケーション			
【成績評価の方法】 基本的に平常評価による。ただし、各学期末頃に、授業時間を使って、その学期に学んだ事柄の確認・復習として、書き取りや聞き取りを行うことも考えている。	【参考文献】			
【教科書】 柴田紀男 『エクスプレス インドネシア語』 白水社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
異文化間コミュニケーション論		通 期	4 単位	遠 山 淳
【講義概要・学習目標】 講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーション、などについて講義し、普遍文化と個別文化との関係、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。 情報は文化を生成し、文化は人間に対して規範的に係わる。異文化間コミュニケーションの最大の問題は自文化なのである。さて諸君は自文化を越えられるだろうか。	【講義計画】 1. 異文化間コミュニケーション論とは 2. 「文化」とは：静態と動態、定義、情報代謝理論 3. 自文化中心主義と文化相対主義 4. コミュニケーションの志向性と型、動因と文化型 5. 言語と文化 6. 非言語コミュニケーション 7. コミュニケーション能力と言語能力 8. コミュニケーションの文化型：片立文化と両立文化 9-10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ 11. 「理解」法の比較 12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界			
【成績評価の方法】 前期末、学年末に試験またはレポートを課し、総合的に評価する。	【参考文献】 遠山他著 石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993 古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987 祖父江孝男『文化人類学入門 増補改訂版』中公新書、1992			
【教科書】 遠山他共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語学概論		通 期	4 単位	林 宅 男
【講義概要・学習目標】 言語学とは言語の本質、構造、使用の規則等を科学的に研究する学問である。その研究内容や方法は多様で関連領域も広く、近年特に急速に発展を遂げてきたが、それが共通に目指しているところは言語を通しての人間そのものの理解であると言える。このことを念頭におきながら、本講義では、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、といった狭い分野にとどまらず、動物言語研究、社会言語学、言語習得論、文体研究、非言語コミュニケーション論を含む幅広い範囲にわたって、最近の動向を含めて出来るだけ分かりやすく紹介したい。更に、我々に最も身近な言語である日本語については、別にその諸相を解説する。ここで扱うのは何れも言語学の概観であるが、その知識、ものの考え方、研究方法が、言語学研究のみならず、人間や人間社会についてのより深い理解や、思考の錬磨につながることを願う。		【講義計画】 1. 「言語学」とは何か 2. 動物の「ことば」と人間の言語（動物言語研究） 3. 比較言語学（言語の起源と世界の言語属） 4. 言語音の体系（音声学・音韻論） 5. 語の構造（形態論） 6. 文の構造（統語論[生成文法]） 7. 言葉の意味と運用（意味論・語用論） 8. 言語と社会（社会言語学） 9. 言語とこころ（言語習得論・言語心理学・言語人類学） 10. 言葉によらないコミュニケーション（非言語コミュニケーション論） 11. 日本語の諸相 12. 言語と文学（文体研究）		
【成績評価の方法】 出席、授業態度、レポート、試験を総合的に評価する。		【参考文献】 ジョージ・ユール（著）今井邦彦・中島平三（訳）『現代言語学20章』大修館書店、1996 中島平三・外池滋生『言語学への招待』大修館書店、1994 ジーン・エイチソン（著）田中春美 ほか（訳）『入門言語学』、金星堂、1998年 小泉保（著）『日本語教師のための言語学入門』大修館書店 田中春美 ほか（編）『現代言語学辞典』成美堂、1988		
【教科書】 石黒昭博 ほか（編）『現代の言語学』金星堂、1996年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
応用言語学		通 期	4 単位	橋 内 武
【講義概要・学習目標】 応用言語学とは何かについて考えたあと、 1. 言語問題の学（言語障害、識字、言語交替など） 2. 外国語教育学（教授法、教材・教具論、評価論） 3. 学際的言語学（言語学と隣接科学） 4. 言語と専門職の研究（通訳・翻訳、言語治療など） の4つの立場から応用言語学の課題と方法について明らかにしたい。 この科目を履修する過程で次第に身近な言語コミュニケーションの問題に関心が高まり、ことばについて多角的に考える習慣が形成されることが学習目的である。		【講義計画】 < 前期 > 第1週～第2週： 序論・応用言語学とは何か 第3週～第7週： 言語問題の学 第8週～第13週： 外国語教育学 < 後期 > 第1週～第7週： 学際的言語学 第8週～第12週： ことばと専門職 第13週： まとめと復習		
【成績評価の方法】 試験による		【参考文献】 R. B. カプラン編 『応用言語学入門』 研究社出版。 K. ジョンソン・H. ジョンソン編 『外国語教育学大辞典』 大修館書店。		
【教科書】 なし。適宜プリントを用意する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（社会言語学）		通 期	4 単位	橋 内 武
【講義概要・学習目標】 社会との関係でことばのしくみとはたらきについて考えるのが社会言語学である。ことばそのものを自律的な体系として捉える狭義の言語学とは異なり、それを社会との相互依存的な体系として捉えるのが社会言語学である。それゆえ、社会言語学は学際的傾向をもつ。 前期にはミクロ社会言語学の中核をなす談話分析（discourse analysis）の基礎と方法と応用について学ぶ。後期にはそれ以外の分野の基本的事項（例えば、言語変種論・言語変異論・多言語社会論など）を押さえる。 究極的には、履修する学生諸君がことばに対する規範的な思い込みから解放されて、より幅の広い言語観をもつようになることをもって、本講の学習目標としたい。	【講義計画】 <前期> 第1週～第3週 ミクロ社会言語学と談話分析の基礎（目的・対象・方法） 第4週～第10週 談話分析のアプローチ（談話文法、会話分析・ことばの民族誌） 第11週～第13週 談話分析の応用（法言語学・文体論・辞書編集・教材開発） <後期> 第1週～第4週 言語の多様性 ― 社会方言と言語変化 第5週～第8週 言語の多様性 ― レジスターと言語意識 第9週～第12週 多言語社会論 ― 言語保持と言語シフト、言語計画			
【成績評価の方法】 試験による。	【参考文献】 井上史雄 『日本語ウォッチング』 岩波書店。 真田信治、ダニエル・ロング 『社会言語学図集』 秋山書店。 真田信治、渋谷勝己・杉戸清樹 『社会言語学』 おうふう。 トラッドギル、P. 『言語と社会』 岩波書店。			
【教科書】 橋内 武 『ディスコース ― 談話の織りなす世界』 くろしお出版。（前期用） 中尾俊夫・日比谷潤子・服部範夫 『社会言語学概論』 くろしお出版。（後期用）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
言語文化特講（対照言語学）		通 期	4 単位	佐 藤 恭 子
【講義概要・学習目標】 言語の基本的知識を学ぶことを目的とします。母国語としての日本語や、外国語として、習得の過程にある英語を中心として、外国語の全体構造を把握していきます。 いままで、言葉のしくみを、具体的に考えたことはないと思いますが、一見異なるようにみえる各言語にも共通性、普遍性があることに気づくことは重要です。	【講義計画】 1. 言語学とは。基本図書等の紹介。 2. 言語研究の枠組み－音韻、構文、意味、談話 3. 音韻論－音素の体系、アクセント 4. 形態論－単語、形態素 5. 統語論－文の構造 6. 意味論－意味の記述 7. 問題考察、まとめ 8. 語用論－言語と使用される状況 9. 社会言語学－言語と社会 10. 心理言語学－言語と心理的要素 11. 言語習得論－外国語学習の習得 12. コーパス言語学－言語とコンピュータ 13. 問題考察、まとめ			
【成績評価の方法】 レポート	【参考文献】 言語学入門 （田中春美ほか。大修館書店。1994年 1650円） 教養のための言語学コース （小泉保 大修館書店。1984年） 講座 言語1 言語の構造 （柴田武 大修館書店。1980年） 日英語比較講座 5 文化と社会（国広哲也編 大修館書店。1993年 2100円） 外国語習得 その学び方100の質問 （水野 光晴 研究社出版 1995年3000円）			
【教科書】 なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅰ		通 期	4 単位	原 田 達
〔講義概要・学習目標〕 現代日本のさまざまな社会的トピックスを素材にして、現代日本の基本構造に迫りたい。 話題として利用されるのは、日常的な事件・出来事・有名人・無名人など。 講義の基本的目標は、日本に留学してきた留学生に、現代日本社会の特徴を紹介し、その社会的・歴史的・文化的意味を知ってもらいたいことにある。主要な履修学生を留学生に設定しているの、日本人の学生さんには、当たり前とか、物足りないとか感じるかもしれない。	〔講義計画〕 まず、最近の日本社会の「話題の人」を取りあげて、彼らの社会的・歴史的・文化的意味について考えたい。取りあげようと思っているのは、たとえば松たか子、柳川喜郎、キティ、ゴジラ、寅さん、などなど。 とはいえ、ここで芸能裏情報を話すつもりはないし、ぼくにそれはできない。ぼくができることは、かれらの社会的・文化的意味の解説だ。松たか子が藤原紀香に勝てるかは判らないけれど、松たか子の生まれ育った社会の解説ならできる。 また、出来事としては、たとえば東海村の臨界事故を取りあげたい。あの事故は、ある意味では「戦後社会」の終焉であった。それはなぜか？			
〔成績評価の方法〕 試験をします。思いついたようにレポートを課します。	〔参考文献〕 その都度指示します。			
〔教科書〕 ありません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本事情研究Ⅱ		通 期	4 単位	岡 村 清 人
〔講義概要・学習目標〕 日本が、近年飛躍的な発展を遂げている背景に、優れた工業材料の開発がいかに深いかかわりを持っているかについて講義を行う。第二次世界大戦後50年、日本の産業発展に大いに寄与している鉄鋼材料、そして、今日の半導体材料、セラミックス材料や複合材料などの先進材料が、今後の日本および世界の発展にいかに関連しつつあるかについて説明する。さらにこのような発展をもたらしている根源についても追求する。 次に、発展に伴って、生活が豊かになり、リスクを負う状況にもなる。例えば産業廃棄物による環境破壊などである。従って経済発展、資源・エネルギーの確保、地球環境保全のトリレンマの克服が今後の重要な課題である。これらの課題について言及する。	〔講義計画〕 〈前期〉 工業材料の発展の柱になっている鉄鋼材料の具体的な説明を行い、それらの明治、大正、昭和、平成における発展の過程、社会への寄与、そして21世紀における創造的発展の可能性について、日本の教育体制などと関連させて講義を行う。 〈後期〉 今日の先進材料と呼ばれている半導体材料、セラミックス材料、複合材料などが、工業材料として日本で大いに発展している事情について講義を行う。そして、これらの工業材料の専心的開発が日本の将来の発展にいかなる影響を与えるかについて予測する。またそれらに伴うリスクについても言及する。			
〔成績評価の方法〕 レポートを主とし、出席など総合的に考慮して評価する。	〔参考文献〕 ・大石 嘉一郎（編）『日本産業革命の研究 上・下』（東京大学出版会） ・堂丸 昌男・山本 良一（編）久松 敬弘 他共著 『未来社会と材料工学』（東京大学出版会） ・H.W.ルイス（著） 宮永 一郎（訳）『科学技術のリスク』（昭和堂） ・村上 陽一郎（著） 『文明のなかの科学』（青土社） ・成定 薫（著）『科学と社会のインターフェイス』（平凡社自然書24）			
〔教科書〕 村上陽一郎（著）『科学・技術と社会』（光村教育図書） 1,600円				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語学概論		通 期	4 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 次の日本語学習者の質問に答えてほしい。「『は』に濁点がつくと『ば』。でも、『な』に濁点の『な』が発音できないのは何故?」「大(おお) + 型(かた) = おおがた(連濁あり)。×おおかた)なのに、何故、大(おお) + 風(かぜ) = おおかぜ(連濁なし)。×おおがぜ)なのか。」「『私は田中です』と『私が田中です』はどこがどう違うのか。」 答えられなくても心配御無用。(簡単に解答されてはこのような問題を飯の種にしている人達(=教師)が困ります。)日本人なら誰でも日本語を「使う」ことはできるが、その複雑な仕組みについて原理的に「説明する」ことは出来ない。(脳味噌は誰でも使えるが、脳味噌の中で何が起きているのか説明できないのと同じ。)日本語学を次の三つの視点から概論する。(1)生物言語学の視点=霊長目ヒト科哺乳類の奇形的に腫れあがった脳のニューロン群の働きの一例としての日本語。(2)教育学の視点=日本語を母語としない者が効果的に日本語を習得する為の実用的な説明。(3)哲学の視点=「自分とは何者か」という問いを(暇な時に)考えるための手がかり。		【講義計画】 <前期> 1. 文字と音(e.g. 音素と発音の関係、拍、濁点など) 2. ことばの単位(e.g. 連濁、形態素、活用など) <後期> 3. 文の成り立ち(e.g. 必須補語 vs. 副次補語、c-command、取り立て助詞「は」、埋め込み文、テンスなど)		
【成績評価の方法】 出席・筆記試験		【参考文献】 野田尚史『はじめての人の日本語文法』(くろしお出版)		
【教科書】 上山あゆみ『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』(くろしお出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語文法・文体論		通 期	4 単位	有 川 康 二
【講義概要・学習目標】 外国語学習に「おかしい」文はつきものである。(※：おかしい文。) a.* 困ったらいつでも私へ来なさい。 b.* 私が京都で撮ったの写真 c.* 私の父は山田先生を知ります。 d.* 先生、私の推薦状はもうお書きになったんですか。(このままでは失礼) 何故おかしいのか。だが、彼らには彼らなりの論理がある。(a)は"come to me"と言うから。(b)は中国語では「我在京都照像的照片」で、「的」という日本語の「の」にあたるものがあるから。(c)は"know"＝「知る」だから。(d)は尊敬語を使用しているから問題ないはず。教科書として使用する『日本語の文法』には日本語のきまりと仕組みを探るためのおよそ百題の問いが用意してある。それらの中からポイントとなる問題を解いていく。		【講義計画】 <前期> 1. 日本語のきまりと仕組み、2. 文の構成要素とその種類分け、3. 「こと」の類型(述語の種類とその補語との結びつき)、4. 「主語」「主格」「主題」、5. 述語の活用、6. テンス・アスペクト、7. 態(ヴォイス一格と動詞の形との相関)、8. 心的態度(ムード)の表現 <後期> 10. 複文の類型、11. 並列的接続、12. 理由・原因、13. 時の特定、14. 条件の表現、15. 連体修飾		
【成績評価の方法】 出席・筆記試験		【参考文献】 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』(くろしお出版) 寺村秀夫(著)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』(くろしお出版)		
【教科書】 寺村秀夫(著)『日本語の文法(上)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書4)) 寺村秀夫(著)『日本語の文法(下)』(国立国語研究所(日本語教育指導参考書5))				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
語彙・意味論		前 期	2 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 ことばによる表現が、単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達的手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。 この講義では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。	【講義計画】 1. 単語と語彙 1) 単語とは 2) 語彙とは 3) 語形 2. 語の数 1) 基礎語彙と基本語彙 2) 使用語彙と理解語彙 3) 語数とカバー率 3. 語の種類 4. 語構成と造語法 1) 語の構成成分 2) 造語法 3) 造語に伴う音声変化 5. 語の意味 6. 意味に関する問題点 7. 語彙教育のポイント			
【成績評価の方法】 定期試験（半期科目であるので、前期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。	【参考文献】 浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック⑤語彙』 （国際交流基金／凡人社）			
【教科書】 森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』 （おうふう）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
文字・表記論		後 期	2 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合を扱う。 日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。 1年次に「論述作文」を履修した人も多いと思うが、日本語を「表記する」という点から見つめ直すいい機会になればと思う。学部・専攻に関係なく、日本語に興味・関心のある人の受講を歓迎する。	【講義計画】 1. 日本語の表記法と基準 1) 漢字の表記法（「常用漢字表」） 2) 平仮名の表記法（「(改定)現代仮名遣い」） 3) 片仮名の表記法（「外来語の表記」） 4) 送り仮名の付け方 5) ローマ字の種類と表記法 2. 文字に関する知識 1) 漢字（の成り立ち） （六書、部首、画数、字形等） 2) 仮名（の成り立ち） （真名、平仮名、片仮名等）			
【成績評価の方法】 定期試験（半期科目であるので、後期1回）により評価する。 詳しくは、授業初回に説明する。	【参考文献】 国立国語研究所（編）『日本語教育指導参考書14 文字・表記の教育』（大蔵省印刷局）			
【教科書】 富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック②新・表記』（国際交流基金／凡人社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅲ (外国人留学生用)		通 期	4 単位	藤 原 健
【講義概要・学習目標】 大学に入って1年以上経ち、留学生として日本語の実力不足を自分たち自身が いちばん痛感しているのではないだろうか。 日本語の能力が不十分のまま大学に入り、その後、日本語の能力は伸びず、む しろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくな っているのが現状ではないかと思う。さらに、テキストなどに出てくる日本語と、 実際回りで聞き取る日本語の差に驚いているのではないだろうか。実際、日本 人はあのような日本語の語彙や表現を、日本語学校の先生たちのような発音で口 にすることはないのである。 この授業では、学部で講義で用いられるテキストの文体に慣れるため、 <u>心理 学・数学・衛生学・生物学などの専門書のばっすいを丁寧に読み進め</u> 、内容の把 握に努める。また、 <u>内容を要約する練習</u> も行う。 また、昨年度に「日本語Ⅲ」で使用した教材『インタビューで学ぶ日本語』の 残りの課を使用して、 <u>普通の日本人の日本語</u> を聞き取る練習をする。	【講義計画】 <読解> (1)各専門分野の文章を読む ・語彙や文型を考える ・内容の把握をする ・シートの設問に答える (2)課によって、要約をする <聴解> (1)インタビューのテープを聞く ・会話の大意をつかむ ・シートの問いに従い、聞き直す ・設問に答える ・ストラテジーなどについて考える ・スクリプトを見ながら再度聞く (2)会話の内容について話し合う ・タスクシートの設問を利用する			
【成績評価の方法】 出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数 回の平常試験(4回程度)で行う。 詳しくは、授業初回に説明する。	【参考文献】 堀歌子・三井豊子・森松映子(共著)『インタビューで学ぶ日本語』(凡人社) 山本一枝・田山のり子・坂本恵(共著)『はじめての専門書』(凡人社)			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語研究特講 (日本語学と日本語教育)		通 期	4 単位	下 條 正 純
【講義概要・学習目標】 本講では、日常使用している日本語を言語としてより客観的に見る目を 養うことを目的として、日本語学各分野における基礎的な概念を解説す る。また、そうした日本語学の基礎知識と関連させて、日本語を母語とし ない人々に対する日本語教育についても講義を行なう。講義内容は、日 本語学、日本語教育の初学者を念頭においており、積極的に身近な言語事 象を取り上げていきたいと考えている。受講生諸君には、自身の発する言 葉や社会に溢れる言語表現に対して敏感であることを期待する。	【講義計画】 前期は、日本語全般の概説に始まり、文法、語彙・意味、音声・音韻、 文字・表記、歴史、方言など、日本語学各分野の説明を行う。後期は、主 として日本語教育についての講義を行う予定である。			
【成績評価の方法】 筆記試験	【参考文献】 『日本語の特質』金田一春彦(日本放送出版協会) 『ここからはじまる日本語学』伊坂淳一(ひつじ書房) 『日本語学を学ぶ人のために』玉村文郎 編(世界思想社)			
【教科書】 必要に応じて資料を配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教 育 社 会 学		通 期	4 単位	宮 崎 和 夫
[講義概要・学習目標] 教育社会学は、教育と社会の関係を社会学の方法で研究する科学である。教育の問題は、今や学校のみならず家庭や地域社会など広範囲で大きな社会問題になっていることが多い。 本講義では、現代社会の特質からくる教育の諸問題を積極的に取り扱う。たとえば、2歳児の殺人事件にまでなった「お受験」をはじめ学歴社会問題、受験戦争問題、家庭や地域社会の教育力の低下問題等と非行や逸脱行為、少年犯罪との関連、いじめや不登校問題、若者文化と流行、マンガ文化やTV文化の教育への影響問題などいろいろな教育問題と学校組織の構造的な問題点との関連を具体的かつ多面的に考察する。 その中で、教育と現代社会の特質との関連を分析する社会学的視点を論究するとともに、現代教育が抱えている諸問題を実証科学的に分析し考察する。				
[講義計画] 〈前期〉 1. 現代社会の特質と教育 2. 情報化社会と教育 3. 国際化社会と教育 4. 少子高齢社会と教育 5. 学歴社会と教育 6. 管理社会と教育 7. 学習社会と生涯教育 〈後期〉 8. 人権問題と教育 9. 学力保障と教育機会 10. ジェンダーと教育 11. 社会階層と教育 12. 学校の官僚制と教師集団 13. 社会変動と教育改革				
[成績評価の方法] 学年末試験の成績と年間数回提出してもらったミニレポートなどを総合して評価する。				
[参考文献] 1. 宮崎和夫（編著）「生徒指導の理論と実践」（学文社） 2. 宮崎和夫（編著）「新現代教育原理」（学文社） 3. 麻生 誠他著「学校の社会学」（学文社）				
[教科書] 宮崎和夫（編著）「現代社会と教育の視点」（ミネルヴァ書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育哲学		後 期	2 単位	徳 永 正 直
[講義概要・学習目標] ドイツの代表的な教育哲学者であるボルノーの思想を中心にして次のような問題を解説したい。①実存哲学と教育学との関係を考察した際に提示された「教育の非連続的形式」、② 哲学的人間学の方法と、言語の人間学的意義、対話による対話への教育の今日的意義、③教育者の課題などについて、ボルノー教育学を通じて、教育哲学の基本的な問題の理解を目指す。				
[講義計画] § 1. 教育哲学とは何か？ § 2. 実存哲学と教育学 ①実存哲学的な人間把握 ②実存に対応する「教育の非連続的形式」としての危機、出会い、訓戒などの人間形成論的意義 ③教育の連続的形式としての「練習」ないし「修練」の意義 § 3. 言語の人間学的意義 ①言語による世界把握 ②言語による自己理解 ③言語の危険性 ④言語によるコミュニケーションの諸形式 ⑤対話による対話への教育 § 4. 教育者の課題				
[成績評価の方法] レポート作品と平常点によって評価する。				
[参考文献] 講義の中でその都度指示する。				
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育史		後 期	2単位	岡 本 洋 之
[講義概要・学習目標] 教育史とは、文字通り教育の歴史である。しかし「歴史」といわれると暗記ばかりで苦痛なもの、難しい人名や地名ばかりで無味乾燥なものというイメージが付きまとう。多くの小・中・高校で誤った歴史教育がそのようなイメージをつくりあげてしまったのは残念である。 本授業では、教育の通史は扱わない（通史を学びたい人には、[参考文献]欄に示した山住書が面白く読めるのでそれを薦める）。その代わり、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけではなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえることにし、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることを知ってもらう。こうして少しでも教育史に親しんでもらうことが、本授業の目標である。	[講義計画] まず、左欄で述べた「教育」の関わる範囲を広くとらえるとはどういうことかを、教科書を見ながら確認する。 そのうえで、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び、その内容を紹介する報告書（1冊につきB5サイズ1枚）を提出する。 こうして報告された本に関して、立候補（または指名）により決められた発表者が、本の中の教育史的内容と感想を順次口頭発表する。 時間の関係で発表できなかった者は、同様の内容のレポートを提出する。 ★題材として取り上げうる本の例……妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓際のトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、ほか。			
[成績評価の方法] 提出物の内容のほか、授業中の発表またはレポートによる。	[参考文献] 山住正巳『日本教育小史』（岩波新書）			
[教科書] 石附実『教育博物館と明治の子ども』（福村出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育行政学		後 期	2単位	金 子 勉
[講義概要・学習目標] 教育行政は「包括的な権力団体としての国家または地方公共団体が、教育政策を定立し、公的承認を受けながら、それを現実化する作用・行為」と定義される。現実の社会において、公教育の実施を保障する教育行政の役割と責任は重大である。 教育行政が行政の一分野であることはいふまでもなく、それゆえ教育行政には規制作用が伴う。しかし、教育行政の特徴は、教育条件の整備という、助成作用が、その主要部分を占めるところにある。人間形成を通じて社会の発展を支援することは、教育行政の責務である。 講義では、まず、教育行政を特徴づける基本原理として「法律主義」、「地方自治」、「教育の自主性・専門性の尊重」をとりあげ、伝統的な学説と現状について講述する。次に、いくつかの教育政策に関する立案・実施過程をとりあげて、教育行政の個別領域における理論と実際の諸相を、具体的に解説する。そして、急激に変化する社会において、教育行政に期待される役割について、理解を深めることとしたい。	[講義計画] 1 教育行政の概念 2 教育行政における法律主義 3 教育行政における地方自治 4 教育の自主性・専門性の尊重 5 中央教育行政の組織 6 地方教育行政の組織 7 教育行政と学校経営 8 教育財政 9 私学行政 10 教育政策と審議会 11 諸外国の教育行政			
[成績評価の方法] レポートおよび学期末試験による。	[参考文献] 市川昭午『教育行政の理論と構造』教育開発研究所 市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究所 黒崎 勲『教育行政学』岩波書店 平原春好『教育行政学』東京大学出版会 村山英雄・高木英明編『教育行政提要』ぎょうせい 文部省『我が国の文教施策』大蔵省印刷局			
[教科書] 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育法規		前期	2単位	金子 勉
[講義概要・学習目標] 元来、教育は私事であり、国家の関与を前提とするものではなかった。しかし、近代公教育制度の成立以後は、学校教育の重要性が明白になり、国家的な関心が高まった。 国家が教育に関与するとき、その在り方は助成的で、また、規制的存在である。例えば、義務教育を実施するために、制度的・財政的な支援が行われる。しかし、その反面、義務教育に関する、さまざまな規制が存在するのも事実である。 そのような国家と教育の関係は、教育法規によって規律される。それは、憲法や法律のほか、各種の命令から成り立ち、きわめて複雑な体系を形成している。そこで、この講義では、教育法規のなかから、特に重要なものを取り上げ、その内容と解釈について、講説する。 なお、最近では、社会の急激な変化に対応するために、教育法規の改正が頻繁である。そこで、「今、教育に何が起きているのか」を問いながら、生きた教育法規の理解を目標として授業をおこなう。	[講義計画] 1 教育法規の体系と種類 2 憲法・教育基本法 3 学校教育法 4 学校設置基準・標準法 5 学習指導要領・教科用図書 6 文部科学省設置法 7 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 8 私立学校法 9 国家公務員法、地方公務員法、教育公務員特例法 10 教育職員免許法 11 社会教育法			
[成績評価の方法] レポートおよび学期末試験による。	[参考文献] 解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂 中央教育審議会「今後の地方教育行政の在り方について」（答申）			
[教科書] 使用しない。	菱村幸彦『やさしい教育法の読み方』教育開発研究所 鈴木勲編著『逐条学校教育法』（第4次改訂版）学陽書房 木田宏『第二次新訂逐条解説地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第一法規 宗像誠也『教育と教育政策』岩波書店 兼子仁『国民の教育権』岩波書店			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育工学		前期	2単位	藤間 真
[講義概要・学習目標] 本年始におけるY2K問題を見てもわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。 教育の現場においても、コンピュータネットワークを活用した情報の受信、収集、発信が重要視されつつある。また、授業の設計、実施、評価、改善という一連の過程に対してもパソコン等を利用した機械化が推進されている。 本講義の目的は、「よりよい教育」という目的から見た道具としての情報機器について理解を深めることにある。 初心者に対する配慮は行うが、初心者向けのコンピュータリテラシー教育を行うことは予定していない。 また、実習は行うが、個々のアプリケーションの利用法の伝授を主目的とはしない。 尚、コンピュータ利用技能に関して不安のあるものは5月に予定されている計算機センターガイダンスに出席することを強く推薦する。	[講義計画] 1回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。講義に関する詳細もそこで提示するので、出席した上で履修するかどうかを決められたい。 予定している話題は下記の通りであるが、講義の進捗状況及び社会情勢によって変化することもあり得る。 ・始めに ・公的インフラとしてのコンピュータ（Y2K問題と教育機関、他） ・情報収集の道具としてのコンピュータ（検索エンジン、データベース、他） ・相互理解の道具としてのコンピュータ（電子メール、他） ・情報発信の道具としてのコンピュータ（ワープロ、PowerPoint、他） ・情報処理の道具としてのコンピュータ（Excel、SPSS、ACCESS、他）			
[成績評価の方法] 毎回の出席・受講態度及び実習課題を中心に総合的に評価する。	[参考文献] 講義中に指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育評価論		後 期	2 単位	島 田 勝 正
〔講義概要・学習目標〕 この講義の目標は次の3点である。 (1) テスト理論、特に「良いテストの条件」である妥当性、信頼性、実用性について理解し、テストの結果を分析出来るようになること。 (2) 教育実践、教育研究に必要な統計処理をパソコン(Excel, SPSS)を使って出来るようになること。 (3) 授業観察が出来るようになること。 授業は学生参加型のワークショップの形態をとる。	〔講義計画〕 1. ガイダンス 2. 項目分析 1 理論 3. 項目分析 2 実習 1 4. 項目分析 3 実習 2 5. 教育統計 1 理論 6. 教育統計 2 パソコン実習 1 7. 教育統計 3 パソコン実習 2 8. 授業評価 1 授業案作成 9. 授業評価 2 テスト作成 10. 授業評価 3 評価票作成 11. 授業評価 4 授業観察 1 12. 授業評価 5 授業観察 2 13. 項目応答理論 14. テスト			
〔成績評価の方法〕 ＊得点配分は以下の通り。(1)課題提出 1回10点×5回=50点(2)レポートまたはテスト50点	〔参考文献〕 ガイダンスにて提示する。			
〔教科書〕 使用しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館学		前期	2 単位	志保田 務
〔講義概要・学習目標〕 図書館学の方法について検討する。図書館学の方法論としては、書誌学的方法論、教育論的方法論、情報学的方法論、社会学的方法論、経営学的方法論、経済学的方法論などがある。本講義では、そうしたもののおおよそについて紹介し、検討する。純粹の図書館学のゼミをとりたいたいと考えるような、あるいは図書館学の2種国家試験をめざすような学生の受講を期待する。	〔講義計画〕 1. 図書館学の成立 2. 書誌学から 3. 教育施設論から 4. 経営論から 5. 公共経済論から 6. 図書館社会学として 7. 情報学との結滞 8. 図書館情報学 9. メディア組織論 10. 学術情報組織論 11. まとめ			
〔成績評価の方法〕 テスト 50% 課題 30% 出席 20%	〔参考文献〕 日本図書館学会『図書館情報学用語辞典』(丸善)			
〔教科書〕 長沢雅男・戸田慎一著『図書館学の方法と領域』 (日本図書館協会)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
現代健康論		通 期	4 単位	中 神 勝
【講義概要・学習目標】 現代社会を称して、一面では少子高齢社会、ストレス社会と云う。この中で私達100人が道徳によって受け継いだ遺産の潜在力を遺憾なく発揮し、健康かで快適に生き抜くこと。また社会が活力に富み、平和で、この個々の人間が、高いQOL獲得に向けての情熱を積極的に支援すること。これらは大変強く期を存されることである。 本講義においては、健康とは何か、また、その高い水準確保に向けての種々の知見を得ること。そして、究極的には人間存在の意味や価値問題、より高次の人間存在に向け、より真実に考える場としたい。	【講義計画】 以下の項目を中心に進捗状況に照らし時間按分し進める。 1. 現代社会の特徴 2. 健康の定義とその推移 3. 健康の概念とその推移 4. 健康学の内容とその役割 5. 健康と体力との関係 6. 健康と体力との現状と課題 7. 健康(体力)の保持増進			
【成績評価の方法】 講義中随時提出を義務づけるショートレポートと定期試験などの結果を総合的に検討し評価する。	【参考文献】 1. 担当者の著書(約10編)及び論文(約80編)の中から関係分を要約しプリント、スライド等で随時配布、提示する。 2. 新聞、雑誌(学術)などから頻りに抜粋し、プリント、スライド等で随時配布する。 3. その他、関連の著書について、その都度紹介し、必要に応じてプリントし配布する。			
【教科書】 教科書は特定せず、資料提供はプリント、スライドなどで行う。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論		通 期	4 単位	中 神 勝
【講義概要・学習目標】 21世紀は、18の時代と云われ、18の中より、豊かなが大切とされる社会である。そして、人生80年時代で健康かに生き抜いて行くためには、次の二つが重要と考えられる。 一つは、活力に富み発進と生きていくことであり、他の一つは生き甲斐を構って生き抜くことである。 スポーツはこれから課題に充分に在るべきものであり、財産であり、文化である。本講義においては、スポーツの起源から今までの歩みについて認識を深化すると、そして改めて人間とスポーツとの関係について問い、その理想追求に向けて振興、発展を考える場としたい。新鮮な豊かな感性の積極的参加を大いに期待したい。	【講義計画】 以下の項目に依り進捗状況にあわせ時間按分し進める。 1. 現代社会の特徴 2. スポーツとは、 3. スポーツと人間および社会 4. スポーツと健康(体力) 5. スポーツとウェルネス 6. 文化としてのスポーツその発展と創造 7. スポーツ・フォー・オール			
【成績評価の方法】 講義中進捗状況と併せ提出を求めるショートレポートと定期試験などの結果を総合的に検討し、評価する。	【参考文献】 1. 広くスポーツに関する雑誌(学術)などで見聞する資料をプリント、スライドなどの形で随時配布、提示する。 2. 教育、哲学、心理、生理、社会学などの専門書と体育学、健康学、衛生学領域の物と併せ参考とし、必要に応じて、必要に応じてプリント、スライドなどで通し、提示し進める。			
【教科書】 講義の進捗状況にあわせ随時、プリント、スライドなどで以て資料を提示し進める。従って特に教科書を定めない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
運動生理学		通 期	4 単位	永谷峯男
[講義概要・学習目標] 呼吸をする、心臓が拍動する、歩くそして走る、そして表情や喋ることまで、いずれも、意識、無意識であれ筋のはたらきです。骨はからだを支え、護るとともに造血の働きもします。脳を含む神経系やホルモン系は、からだをコントロールしバランスを保ちます。また、スポーツトレーニングはこれらの知識を基礎として、科学的に行われなければなりません。 本学は文化系大学ですが、人間を理解することは大切で、欠かせないと考えます。その中で、人体の「しくみ」と「はたらき」から学ぶことは多いと思います。 人間は緊張もするしリラックスもします。表情にも、立ち居振る舞いの動作にもそれが現れます。普段の生活でも経験しますが、スポーツの試合やゲームの場面では端的です。何故でしょうか。 いまの運動生理学はミクロの世界の分子や電子そして遺伝子へと難解かもしれません。また、研究が分業化され、理解しにくくしているとも思います。 本講義では、私たちの生活での、あるいは運動をする時の、からだの働きから「なぜ」「どうして」の人体の疑問と理解を目指します。	[講義計画] 1. からだは何故動くか 2. 骨格筋の構造と機能 3. 運動と筋 4. 骨の構造と機能 5. 運動と骨代謝 6. 神経系の構造と機能 7. 神経系による運動の調節 8. 運動と呼吸 9. 運動と心循環・末梢循環 10. 運動とエネルギー代謝 11. 瞬発的な運動と持久的な運動 12. 運動とホルモン分泌 13. スポーツとドーピング 14. スポーツトレーニング 15. 運動と生活習慣病			
[成績評価の方法] 前期試験・後期試験および小テストなどにより成績評価する。 出席点を加える。	[参考文献] 授業の進行に合わせてしらせます。			
[教科書] 指定しない。必要に応じプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ科学		通 期	4 単位	<前期> 今 西 俊 次 <後期> 高 成 廈
[講義概要・学習目標] スポーツ科学は人間そのものをあつかう総合科学であり、近年この分野の研究には著しいものがある。その成果は、たんに「強く・高く・速く」という、一握りのトップアスリートだけのものではない。健康者にとってはもちろんのこと、障害者や中・高齢者にとっても有効なものである。 本講義では、スポーツが体力に与える影響と体力がスポーツに与える影響を考察し、合理的なトレーニングの方法について理解を深める。また、健康・体力の維持・向上を願うすべての人に、スポーツの新たな可能性を再発見してもらいたい。	[講義計画] 前期、第1回目の授業で説明します。 後期、第1回目の授業で説明します。			
[成績評価の方法] レポートと前・後期テストを合わせ、総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書] 資料を配布する。				